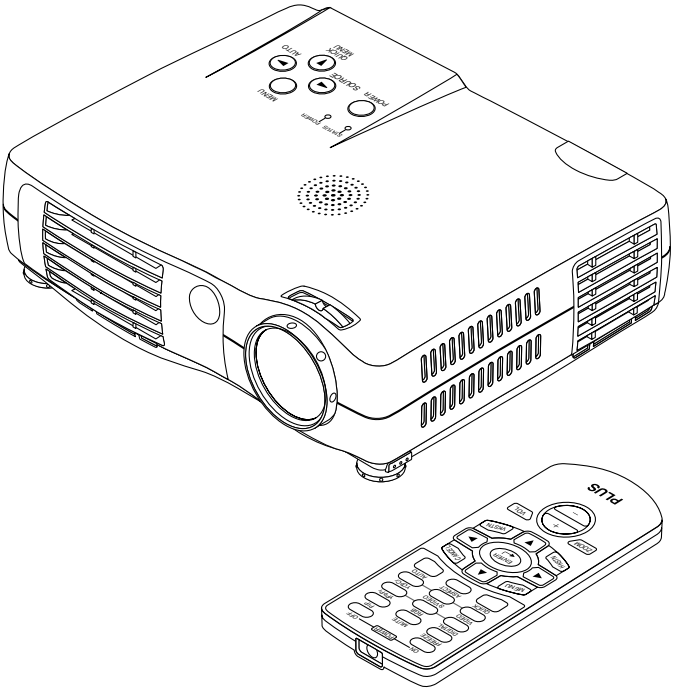
PLUS

デジタルプロジェクタ

V-1100

取扱説明書



保証書別添付

このたびは プラス デジタルプロジェクタ をお買いあげいただきありがとうございました。

ご使用の前に、本機の機能を十分生かしてご利用いただくために、この「取扱説明書」を最後までお読みください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに、いつでも見られる所に大切に保存してください。万一、ご使用中にわからないことや不具合が生じたときには、この「取扱説明書」をお読みください。

＊DLP™(Digital Light Processing)、DMD(Digital Micromirror Device)は、米国テキサスインスツルメンツ社の登録商標です。
＊DMDは、米国テキサスインスツルメンツ社が開発した液晶に替わる超精密部品です。
＊VGA、XGAは米国International Business Machines Corporationの商標または登録商標です。
＊S-VGAはVideo Electronics Standards Associationの登録商標です。
＊TMDSはシリコン・イメージ社の商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

注　意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると受信妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

（1）本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
（2）本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3）本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
（4）本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、当社では（3）項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
（5）乱丁、落丁はお取り替えいたします。

主な特長

■単行本サイズで約1.0kgの軽くて小さな高輝度モバイルプロジェクタ

DMDと独自の光学設計の相乗効果で、光の利用効率を向上。カラー表現に必要な3 原光(RGB)を1 枚のDMDで再現。これにより、高輝度化と小型・軽量化を可能にしました。

■鮮明でクリアな画像

RGBの色ズレがなく、ひとつひとつのドット(点)の隙間が目立たないので、小さな文字や図表などをくっきりと明瞭に表示。近づいて見れば、さらにその違いがわかります。

■DVDなど高画質の映像を再現すると際立つ美しさ

色彩を忠実に再現することで、より自然な映像を表示できます。とくに、DVDをはじめとする高画質の映像ほど、デジタルプロジェクタが本来持つ表示能力を引き出します。

■ピクチャインピクチャでプレゼンテーションがより効果的

パソコン画像内にビデオ映像を子画面で投映。プロジェクタの活用がさらに広がります。

■投映画面の水平・垂直方向の歪みをデジタル技術で補正

通常の台形歪み補正に加え、新技術で水平方向の歪みも補正します。このため設置調整がさらに簡単になりました。

■DVI端子のパソコンも接続可

DVI-I端子の装備によりアナログRGB信号・デジタルRGB信号も入力できます。
(通常のアナログRGB端子のパソコンとは添付の変換ケーブルで対応しています。表示解像度につきましては69ページ対応周波数一覧表をご覧ください。)

目　次

準備と予備知識

主な特長.....3
目次.....4
安全のために必ずお守りください.....6
ご使用の前に.....6
警告.....7
ご注意.....10
使用上のお願い.....12
附属品を確認する.....13
本体各部のなまえ.....15
盗難防止用ロックについて.....16
リモコン各部のなまえ.....17
リモコンを準備する.....18
ボタン電池交換のしかた.....18
リモコンの受光可能範囲.....18

設置と投映

スクリーンに投映するまでの手順.....19
設置の目安.....20
画面サイズと投映距離.....20
パソコンや映像機器を接続する.....22
PC端子との接続.....22
パソコンがDVI端子の場合.....22
パソコンがミニD-Sub15ピン端子の場合...23
ノートパソコンの外部出力信号を出力するには...24
VIDEO端子との接続.....25
映像機器が映像端子の場合.....25
映像機器がS映像端子の場合.....25
コンポーネント信号との接続.....26
映像端子がYCbCr端子の場合.....26
映像端子がYPbPr端子の場合.....26
AUDIO端子との接続.....27
電源コードの接続と入／切.....28
使うとき.....28
終わったとき.....29
投映画面の調整.....30
投映画面の位置調整.....30
アジャスタの調整のしかた.....31
フォーカス（焦点）の調整.....31

ふだんの操作

入力の選択.....32
アナログRGBの自動調整.....32
アスペクト比の選択.....33
子画面を映す.....34
動画を静止画面にする.....34
画像と音声を一時的に消去する.....34
クイックメニューを使う.....35
投映画面の台形歪みを補正する.....36
映像の拡大と画像移動.....37
音量の調整.....38

メニュー操作の方法

メニュー操作の方法.....39
各部の名称とはたらき.....39
メニューで操作するリモコンボタンの名称とはたらき.....39
メニュー操作で使用する本体ボタンの名称とはたらき.....40
メニュー画面の名称とはたらき.....40
メニュー操作のしかた.....41
リモコン操作のとき、他のメニュー名を選択する場合.....44
入力選択と調整／設定可能な項目名の一覧表.....45

調整と設定

映像.....47
明るさ／コントラスト／カラー／色相／シャープネス.....47
クロック周波数／位相／水平位置／垂直位置.....47
リセット.....48
カラー.....49
ガンマ.....49
色温度.....49
カラー方式.....49
カラースペース.....50
画面.....51
アスペクト.....51
フィルタ.....52
投映方法.....52
キーストーン.....53
ピクチャインピクチャ.....54
設定.....55
言語.....55
オートソース.....55
省電力.....56
表示切替.....56
メニュー位置.....56
YPbPr.....57
バックグラウンド.....57
ホワイトバランス.....57
情報.....58
ステータス.....58
初期化.....58
ランプ使用時間リセット.....58
解像度／周波数.....59
ランプ使用時間.....59

その他

STATUSインジケータが点灯／点滅しているときは.....60
故障かな？と思ったら.....62
お手入れについて.....64
ランプカートリッジの交換.....65
仕様.....68
対応周波数一覧表.....69
外観図.....70
アフターサービス.....71

《ご使用の前に》

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡や大けがをするなど人身事故の原因となります。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり周囲の家財に損害をあたえたりすることがあります。

絵表示の意味

△ この記号は注意（警告を含む）をうながすことを表しています。
図の中に具体的な注意内容（右図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ この記号はしてはいけないことを表しています。
図の中に具体的な禁止内容（右図の場合は分解禁止）が描かれています。

● この記号はしなければならないことを表しています。
図の中に具体的な指示内容（右図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告

禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁やラック(棚)などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったリしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、販売店または弊社「カスタマーセンター」に交換をご依頼ください。

分解禁止

内部を開けない

内部には電圧の高い部分があります。キャビネットや裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の調整や設定、点検、修理は販売店または弊社「カスタマーセンター」にご依頼ください。

高温注意

ランプ交換はランプが充分に冷えてから行う

電源を切った直後はランプが高温になっており、さわるとやけどの原因となります。ランプ交換の際は、電源を切ってから60 分以上たって、充分にランプが冷えてから行ってください。

禁止

レンズをのぞかない

投映中にプロジェクタのレンズをのぞくと光が目に入り、悪影響を与えることがあります。

禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、販売店または弊社「カスタマーセンター」にご相談ください。

⚠警告

禁止

次のようなところでは使用しない

火災・感電の原因となります。

- 本機を暖房の近くや振動の多い所。
- 湿気やほこりの多い場所。
- 油煙や湿気の当たるような場所。（調理台や加湿器のそばなど）

禁止

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

定格電圧以外使用禁止

表示以外の電圧で使用しない

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

水場や水にぬれるような所には置かない

水が入ったり、ぬれたり、風呂場などで使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際でのご使用や、海岸、水辺でのご使用は特にご注意ください。

電源プラグをコンセントから抜く

故障したままの使用はしない

万一、煙が出ている・変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
すぐに電源を切り、そのあと必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから販売店または弊社「カスタマーセンター」に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

すぐ修理依頼を

取扱説明書に従って正しく使用してもなお画面が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。火災・感電の原因となります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または弊社「カスタマーセンター」に修理を依頼してください。
お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠警告

禁止

排気孔、吸気孔をふさがない

排気孔、吸気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。また、手を近づけるとやけどをする場合があります。
風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 周囲の壁から10cm 以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 布などで包まない。
- たてて使用しない。

電源プラグ
をコンセントから抜く

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となります。

禁止

プロジェクタの上に水が入った物を置かない

内部に水が入ると火災や感電の原因となります。

電源プラグ
をコンセントから抜く

長時間の外出、旅行のときは、電源プラグを抜く

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。
感電の原因になります。

電源プラグの刃および刃の付近の付着物はとる

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのままで使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注意

禁止

電源プラグを
コンセントから抜く

電源コード・電源プラグについて

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブル、転倒防止をはずしたことを確認の上、行ってください。接続したまま移動させるとコードに傷が付き、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

部品割れは
修理依頼を

部品が割れた際は修理依頼を

本機内部にはレンズやフィルタ、ランプなどのガラス部品を多数使用しています。
万一、部品が割れた際には、破片でけがなどをしないように取り扱いに注意し、販売店または弊社「カスタマーセンター」に修理を依頼してください。

内部の掃除は
販売店で

点検・工事について

1 年に一度くらいは内部の掃除を販売店または弊社「カスタマーセンター」などにご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部掃除費用につきましては販売店または弊社「カスタマーセンター」などにご相談ください。

無理な扱いは
しない

キャリングケースの取扱上のご注意

本機を入れて振り回さないでください。また、無理なサイズのものは入れないでください。
移動の際に本機の傷や故障の原因になることがあります。

⚠注意

電池の取り扱い

電池の取り扱いには注意してください。火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池をショート、分解、火に入れたりしない。
- 指定以外の電池は使用しない。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 電池を入れたまま長期間放置しない。
- ボタン電池は幼児の手の届かないところに保管する。

- 電池をリモコンに入れる場合、極性を（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、機器の表示通りに入れる。
- 使いきった電池はすぐに機器から取り出す。
- 直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管する。
- 電池を廃棄するときは、その地域の回収方法に従ってください。

投映中にレンズキャップはしない

- 投映中はレンズにふたをしないでください。ふたの部分が高温になり溶けることがあります。
- 投映中にレンズの前に水槽等、レンズ効果をもたらすものを置かないでください。火災の原因となることがあります。

使用上のお願い

性能確保のため、次の点にご留意ください。

1.持ち運びについて

本機を持ち運ぶときは、付属のソフトポーチを使用してください。また、デジタルプロジェクタ本体には強い衝撃を与えないでください。

2.ご使用の前にはレンズキャップを必ず外してください

3.投映レンズ面は素手でさわらないでください

投映レンズ面に指紋や汚れがつくと、充分な画質が得られませんので、レンズ面には手をふれないでください。

4.スクリーンについて

ご使用のスクリーンに汚れ、傷、変色などが発生すると、きれいな映像が見られません。スクリーンに揮発性のものをかけたり、傷や汚れが付かないよう取り扱いにご注意ください。

5.リモコンについて

本機の操作の一部はリモコンで行います。リモコンをなくさないようにご注意ください。

6.振動や衝撃が加わる場所への設置は避けてください

動力源などの振動が伝わる所に設置したり、車両、船舶などに搭載すると、本機に振動や衝撃が加わって内部の部品がいたみ、故障の原因となリます。振動や衝撃の加わらない場所に設置してください。

7.高圧電線や動力源の近くに設置しないでください

高圧電線、動力源の近くに設置すると、妨害を受ける場合があります。

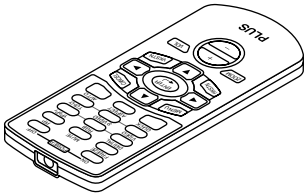
8.廃棄について

本体廃棄の際は、お買いあげの販売店または、自治体にお問い合わせください。

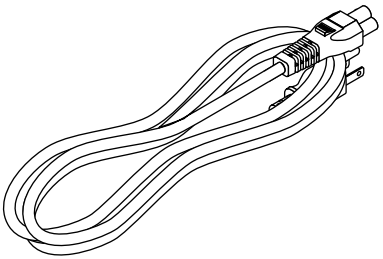
付属品を確認する

本体と付属品を箱から取り出して、次のものが同梱されていることをご確認ください。

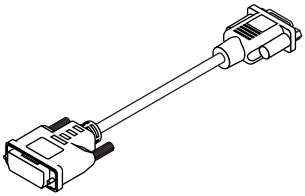
リモコン［ボタン電池1個付］（1個）
プロジェクタを操作します。ご使用の際は輸送用絶縁シートを外してください。（18ページ参照）



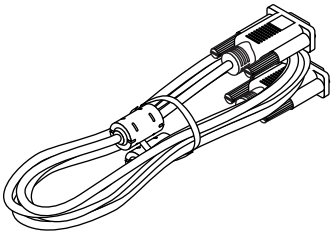
電源コード［1.8m］（1本）
電源を供給する電源コードです。接続は ➔ 28ページ



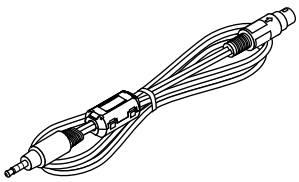
DVI／ミニD-Sub15ピン変換ケーブル［19cm］（1本）
パソコンのモニタ端子がミニD-Sub15ピンの場合に使います。接続は ➔ 23,26ページ



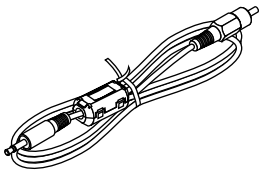
RGB信号ケーブル［ミニD-Sub15ピン、2m］（1本）
パソコンのモニタ端子がミニD-Sub15ピンの場合に使います。接続は ➔ 23ページ



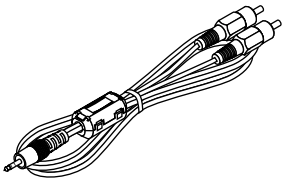
S-ビデオケーブル［Φ3.5プラグ／ミニDIN4 ピン、1.5m］（1本）
S映像端子の映像機器との接続に使います。接続は ➔ 25ページ



ビデオケーブル［Φ3.5プラグ／RCAピン、1.5m］（1本）
映像端子（RCAピン）の映像機器との接続に使います。接続は ➔ 25ページ

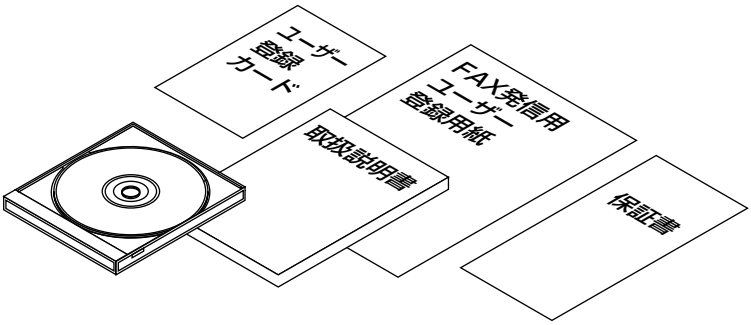


オーディオケーブル［φ2.5プラグ／RCAピン1.5m］（1本）
接続機器の音声端子がフォノピンタイプのとき使います。接続は ➔ 27ページ



ソフトポーチ（本体・付属品用　1個）
プロジェクタの保管や移動のときに使います。ソフトポーチはマジックテープで1つになっています。2つに分けることができます。

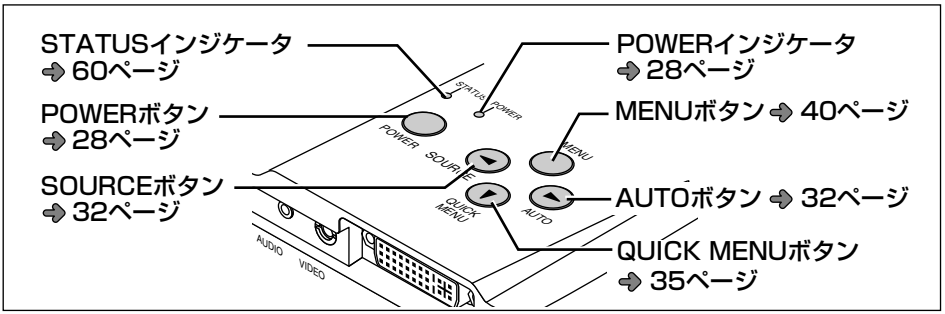
取扱説明書（CD-ROM版）（1枚）、取扱説明書（簡易版）（1冊）、保証書（1枚）、FAX発信用ユーザー登録用紙（1枚）、ユーザー登録カード（1枚）

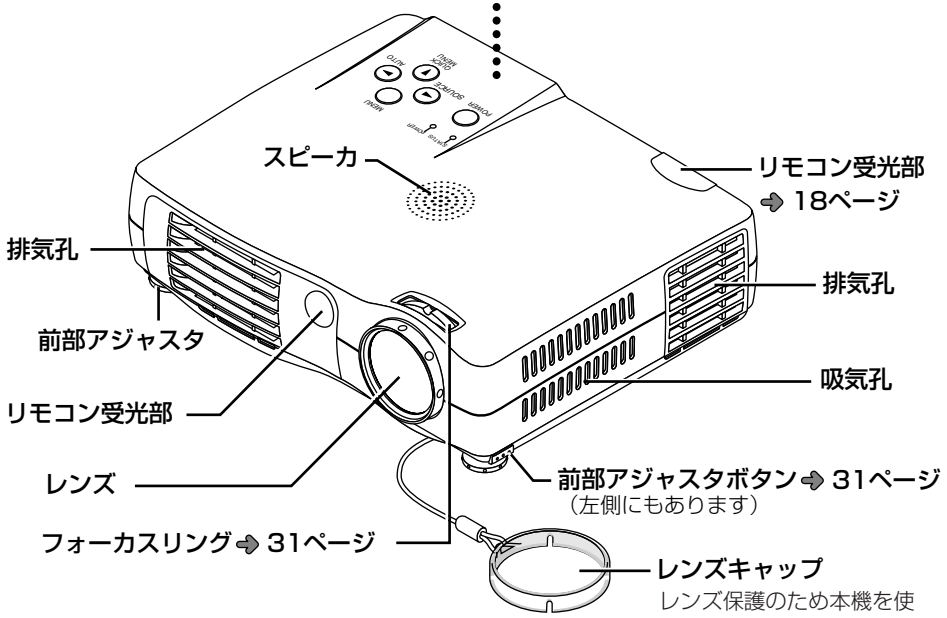


お願い

- ソフトポーチに入れるときは、本体が常温に戻るまで（5～10分）電源コードを抜かないでください。電源を切った後すぐ収納すると本体の故障の原因になる場合があります。
- 必ずレンズキャップをして、レンズ面を上にしてソフトポーチに入れてください。

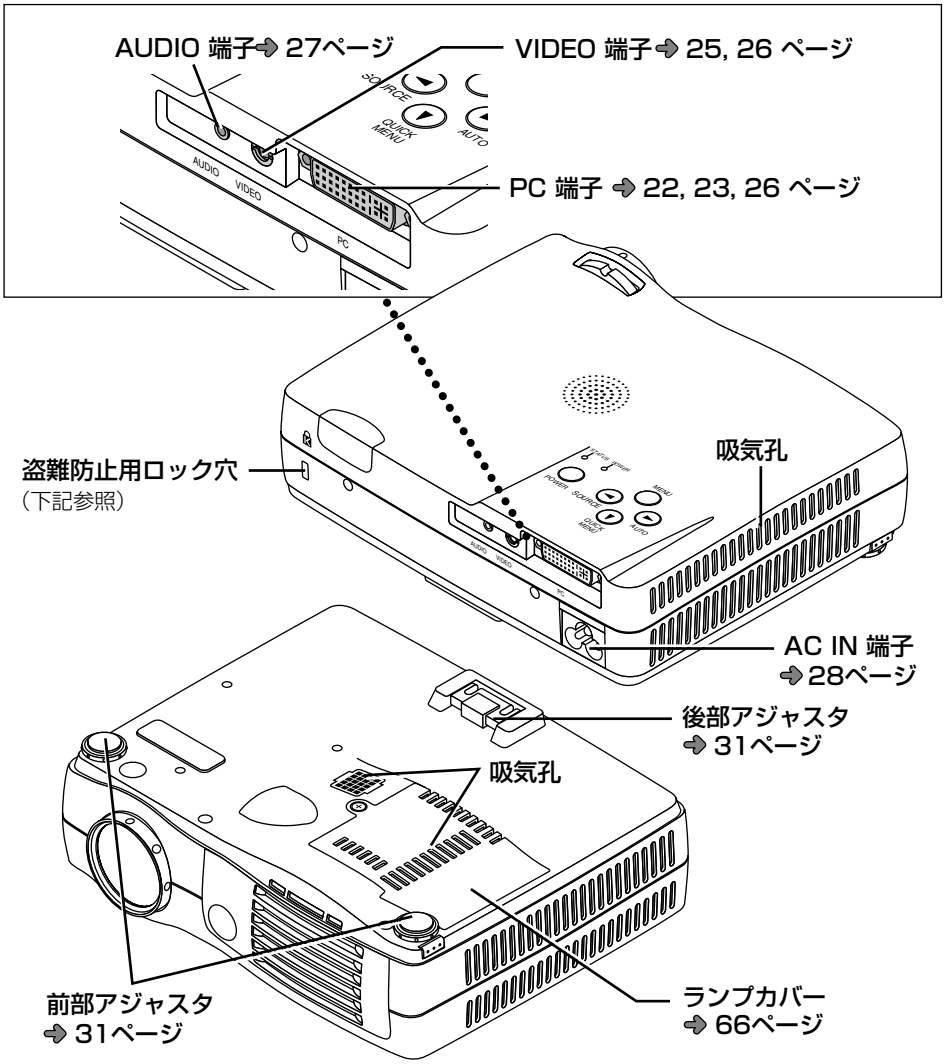
本体各部のなまえ





お願い

排気孔からはランプの熱が出ますのでご注意ください。

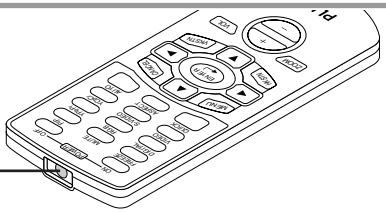


盗難防止用ロックについて

盗難防止用ロックは、Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。この製品についてのお問い合わせ先は、右記のとおりです。

日本ボラデジタル株式会社
〒104-0032　東京都中央区八丁堀1-5-2
はごろもビル5F
Tel : 03-3537-1070
Fax : 03-3537-1071

リモコン各部のなまえ



リモコン送信部➔18ページ

POWERボタン➔28ページ
ONボタン：電源入り、OFFボタン：電源切り

FREEZEボタン
➔34ページ
（動画を静止します）

MUTEボタン➔34ページ
（映像・音声の一時消去）

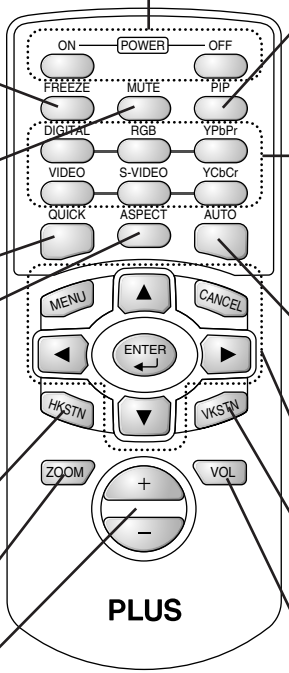
QUICKボタン➔35ページ
（簡易メニューの表示）

ASPECTボタン
➔33ページ
（画面の横・縦の比率選択）

HKSTNボタン➔36ページ
（水平方向の歪み補正表示）

ZOOMボタン➔37ページ
（デジタルズーム調整表示）

＋／－ボタン
（全ての調整に使用）



PIPボタン➔34ページ
（PC端子の表示画面にVIDEO端子の映像を子画面で映す）

入力選択に使うボタン
➔32ページ
DIGITALボタン、RGBボタン、
YPbPrボタン、VIDEOボタン
S-VIDEOボタン、YCbCrボタン

AUTOボタン
➔32ページ
（アナログRGBの画像を自動調整）

メニュー操作に使うボタン
➔39ページ

VKSTNボタン➔36ページ
（垂直方向の歪み補正表示）

VOLボタン➔38ページ
（音量調整表示）

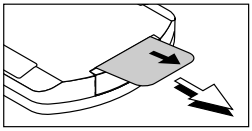
お願い

リモコンの取り扱いについて

- リモコンを落としたり、誤った取り扱いはしないでください。
- リモコンに水や液体をかけないでください。万一、ぬれた場合は、すぐにふき取ってください。
- できるだけ熱や湿気のないところで使用してください。
- ボタン電池は幼児の手の届かないところに保管してください。万一、飲み込んだ場合はただちに医師の診断を受けてください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、ボタン電池を取り出してください。
- リモコンしかできない操作がありますので、取り扱いには注意してください。

リモコンを準備する

ボタン電池交換のしかた

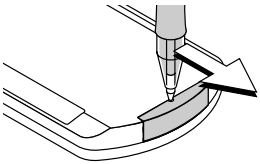


●はじめてご使用になる場合

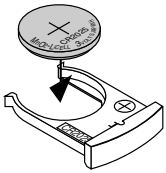
出荷の際には輸送用絶縁シートを挟んでいます。シートを引き抜いてご使用ください。

●交換のしかた

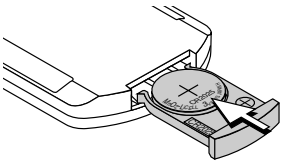
1 ボールペンの先などを電池ケースの穴に入れ、手前に引くと開きます。



2 古い電池を外し、新しいボタン電池の＋面を上にして、電池ケースに入れます。



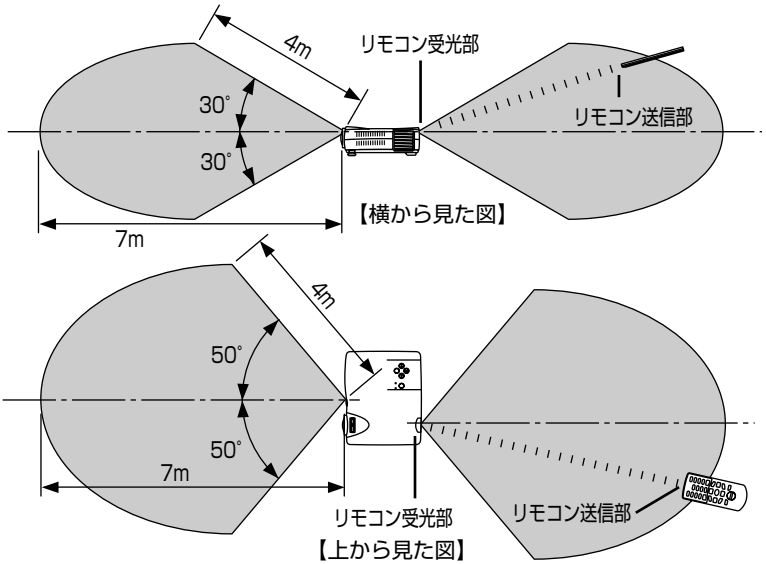
3 電池ケースをリモコンに入れ、「カチッ」と閉まるまで電池ケースを押します。



お願い 交換する電池は、付属のボタン電池（CR2025）と同じものをご使用ください。種類の異なった電池を使用すると破裂のおそれがあります。

リモコンの受光可能範囲

リモコンのリモコン送信部を本体の前または後ろのリモコン受信部に向けて操作してください。おおよそ下図の範囲内で受信できます。



お知らせ

- 本体のリモコン受光部やリモコンのリモコン送信部に明るい光が当たっていたり、途中に障害物があって信号がさえぎられていると動作しません。
- ボタン電池が消耗していると動作しません。

スクリーンに投映するまでの手順

設置調整は次の順序で行います。

1 **位置決めをする**➔20ページ「投映距離と画面サイズ」

スクリーンおよびプロジェクタの設置場所を決めます。

2 **パソコンや映像機器を接続をする**

お手持ちの機器と接続します。

パソコンがDVI端子の場合、ミニD-Sub 15ピン端子の場合

➔22ページ「PC端子との接続」

映像機器が映像端子の場合、S映像端子の場合

➔25ページ「VIDEO端子との接続」

映像機器がYCbCr端子の場合、YPbPr端子の場合

➔26ページ「コンポーネント信号との接続」

音声を本機内蔵スピーカから出す場合

➔27ページ「AUDIO端子との接続」

3 **電源コードを接続し、電源を入れる**

➔28ページ「使うとき」

➔29ページ「終わるとき」

4 **パソコンや映像機器の電源を入れる**

5 **投映画面をスクリーンに正しく合わせる**➔30ページ「投映画面の位置調整」

6 **フォーカス（焦点）を合わせる**➔31ページ「フォーカス（焦点）の調整」

7 **入力機器を選択する**➔32ページ「入力の選択」

8 **画像や映像を調整する**

必要に応じて最適な状態に調整してください。

調整項目は目次（調整と設定）をご覧ください。

DLPプロジェクタについて

品質には万全を期しておりますが、DLP方式のプロジェクタにおいては、ごくまれに画素の中に黒点もしくは輝点が存在することがあります。あらかじめご了承ください。

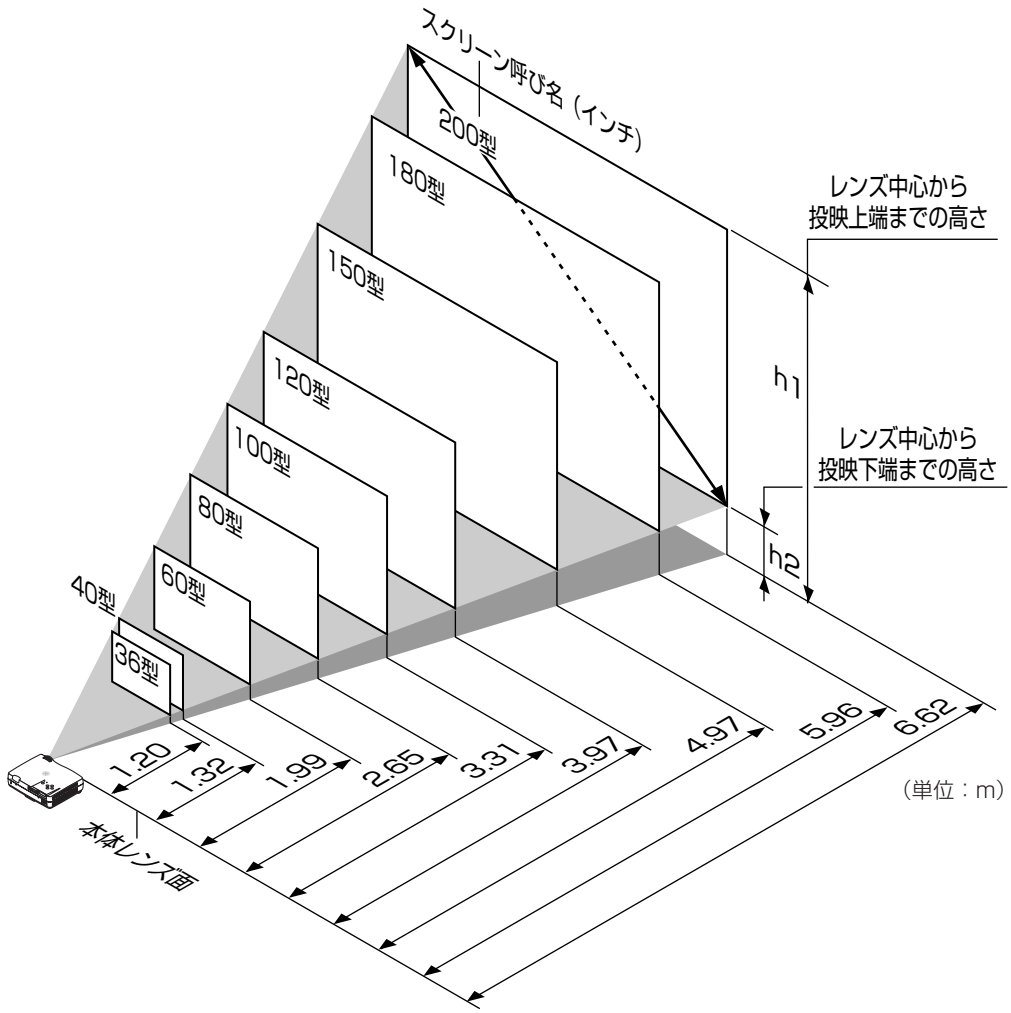
お知らせ

- スクリーンは別途お買い求めください。
- DVI端子のパソコンと接続するには別売のDVI-Dケーブル（注文コード 28-697）が必要です。
- DVDプレーヤなどYCbCr端子の機器と接続するには別売のコンポーネントケーブル（注文コード 28-698）が必要です。
- HD映像機器などYPbPr端子の機器と接続するには別売のコンポーネントケーブル（注文コード 28-690）が必要です。

設置の目安

- この場所に設置するとどのくらいの画面サイズになるか、またどのくらいのスクリーンを用意すればいいのかを知りたいときの目安にしてください。
- フォーカス（焦点）の合う投映距離は本体レンズ面から約1.2m～6.6m です。この範囲内に設置してください。

画面サイズと投映距離

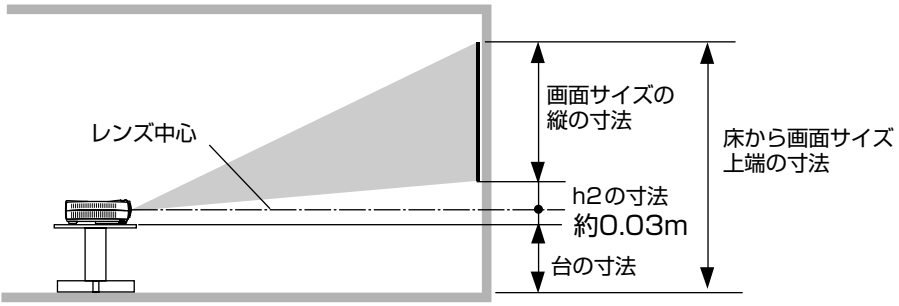


スクリーン呼び名 （インチ）	画面サイズ 横×縦（m）	投映距離 （m）	高さ h1 (m)	高さh2 (m)
36型	0.74×0.55	1.20	0.65	0.10
40型	0.81×0.61	1.32	0.72	0.11
60型	1.22×0.91	1.99	1.07	0.16
80型	1.63×1.22	2.65	1.43	0.21
100型	2.03×1.52	3.31	1.79	0.26
120型	2.44×1.83	3.97	2.14	0.31
150型	3.05×2.29	4.97	2.68	0.39
180型	3.66×2.74	5.96	3.21	0.47
200型	4.06×3.05	6.62	3.57	0.52

- 設計値のため、±5%の誤差があります。
- この表はレンズ先端およびレンズ中心を基準とし、また、本体が水平の状態（前後のアジャスタを縮めた状態）で表しています。

【ご参考】投映画面の設置高さについて

設置場所や位置が決まりましたら、投映の高さもご確認ください。大きなスクリーンサイズでは床から天井の高さ以内に投映できない場合があります。
必要な設置高さは次の計算になります。
レンズ中心から投映上端までの高さm ＋ 0.03m ＋ 台の高さ　になります。
【例】150型の4：3スクリーンで、プロジェクタを水平に置いた場合は
2.68m+0.03m=2.71m　必要になります。（台無しの場合）
設置する部屋の高さが2.4mのときは、プロジェクタを床に設置しても室内高さが足りないことになります。（なお、後部アジャスタを起こして投映画面を下げることができます。）



パソコンや映像機器を接続する

● パソコンを接続すると会議や講義など大画面ディスプレイとして作成データを映すことができます。また、DVDプレーヤなどの映像機器を接続し、さらにAVアンプやスピーカシステムを組み合わせると迫力あるホームシアターが楽しめます。

PC端子との接続

パソコンとの接続の前にご確認ください。

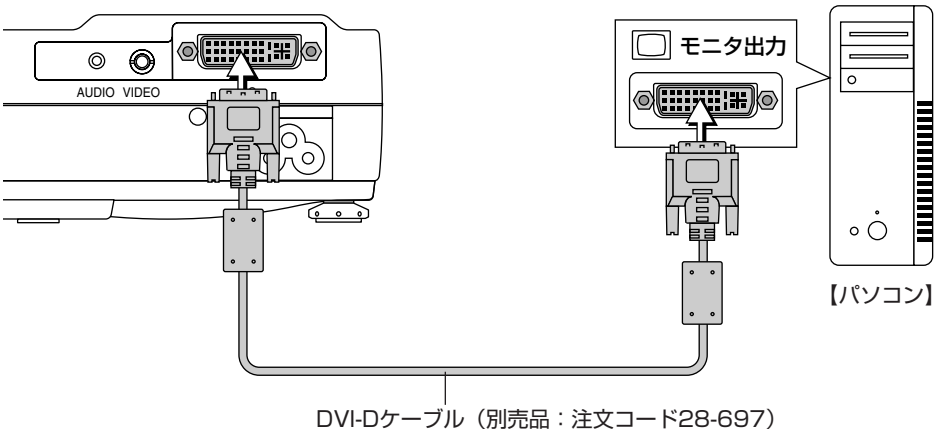
本機の適した解像度は1024×768ドット(XGA)、表示可能解像度はS-XGA(1280×1024ドット）です。

また表示可能解像度を超える解像度を入力すると映らなくなりますので、パソコン側で表示可能な解像度に変更してください。➔69ページの「対応周波数一覧表」でご確認ください。

- パソコンの設定方法はお使いのパソコンによって異なりますので、パソコンの取扱説明書やオンラインヘルプをお読みになるか、パソコンメーカーへお問い合わせください。

■ パソコンがDVI端子の場合

- 本機のPC端子とDVI-Dケーブルで接続します。
  接続するときは端子の向きを合わせて差し込んでください。その後つまみを回して本体の端子に固定します。
- 本機の入力選択を［デジタルRGB］に切り換えます。

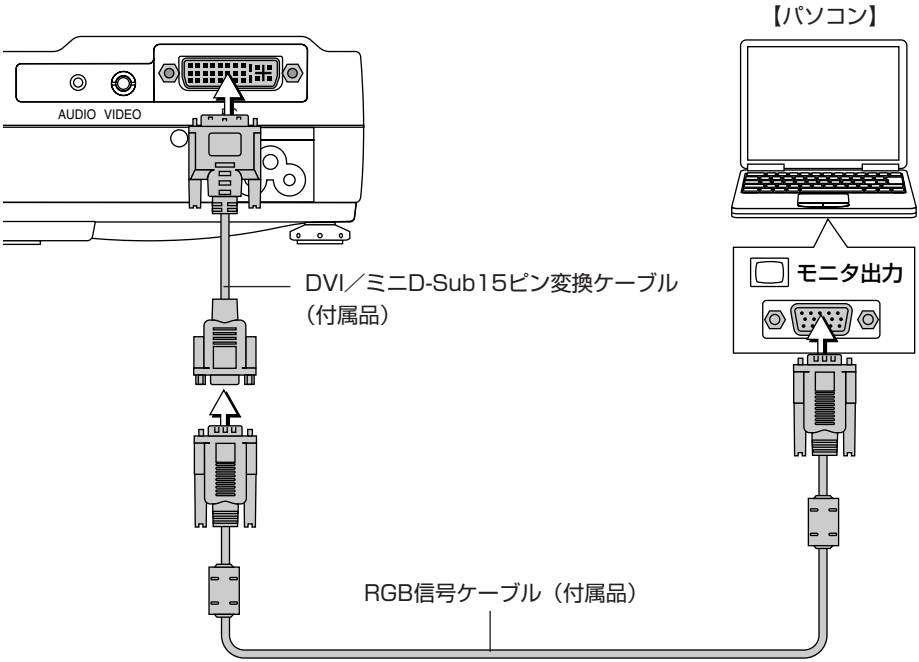


お知らせ

- 本機はデジタルインターフェースに対応した29ピンDVI-I端子です。DVI規格（Digital Visual Interface）のデジタル信号TMDS（Transition Minimized Differential Signaling）を採用しています。

■ パソコンがミニD-Sub 15ピン端子の場合

- 本機のPC端子とミニD-Sub15ピン端子とをDVI／ミニD-Sub15ピン変換ケーブルを介して接続します。
- 接続するときは端子の向きを合わせて差し込んでください。その後つまみを回して本体の端子に固定します。
- 本機の入力選択を［アナログRGB］に切り換えます。



お知らせ

- 接続の際は、本機と接続機器の電源が切れていることをご確認ください。
- ノートパソコンを接続して投映する際、ケーブル接続とノートパソコン起動の手順や、起動後の操作など、必要な知識があります。お手持ちのノートパソコンの取扱説明書やオンラインヘルプをご覧ください。

■ ノートパソコンの外部出力信号を出力するには

ノートパソコンを接続する際、ケーブル接続とノートパソコン起動の手順や、ノートパソコン起動後の操作など、必要な知識があります。お手持ちのノートパソコンの取扱説明書やオンラインヘルプを確認しながら、以下の手順を行ってみてください。

1 ノートパソコンから本機に信号がでているか確認する。
ノートパソコンの液晶画面に表示されていても外部出力信号が出力されているとは限りません。

2 ノートパソコンから信号がでていないときは、以下の操作をためしてください。
IBM PC/AT、DOS/V機の場合、［Fn］キー＋ ［F1］ ～ ［F12］ キーのいずれか（下記表参照）を押します。

メーカー名	機　種	キー
akia	全機種	Fn + F2
COMPAQ	全機種	Fn + F4
DELL	全機種	Fn + F8
EPSON	全機種	Fn + F8
FUJITSU	全機種	Fn + F10
GATEWAY	全機種	Fn + F3
iiyama	全機種	Fn + F3
IBM	全機種	Fn + F7
NEC	全機種	Fn + F3
Panasonic	全機種	Fn + F3
SHARP	全機種	Fn + F5
SONY	全機種	Fn + F7
SOTEC	全機種	Fn + F3
TOSHIBA	全機種	Fn + F5
Victor	全機種	Fn + F10

注）表の内容は2002年9月現在のものです。

お知らせ

- ノートパソコンの液晶画面と本機を同時に表示させた場合、液晶画面は正常に表示されていても投映された映像が正常でない場合があります。その場合はノートパソコンの同時表示をやめ、外部出力のみのモードにしてお試し（前記の2のような操作をしたり、液晶パネルを閉じたりすると、外部出力のみとなる場合があります。）ください。

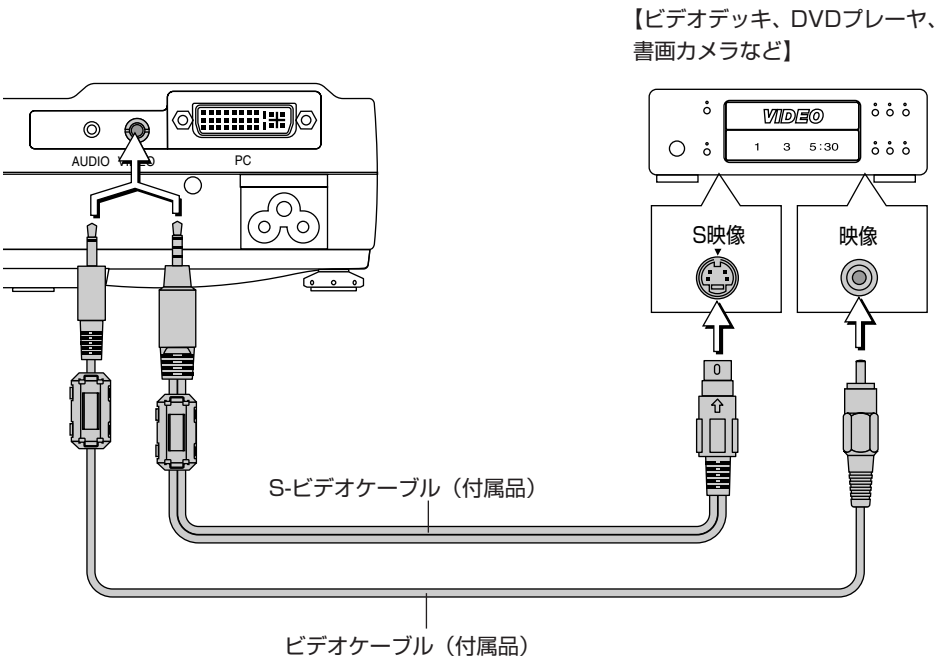
VIDEO端子との接続

■ 映像機器が映像端子の場合

- 本機のVIDEO端子とビデオケーブルで接続します。
- 本機の入力選択を［Video］に切り換えます。

■ 映像機器がS映像端子の場合

- 本機のVIDEO端子とS-ビデオケーブルで接続します。
- 本機の入力選択を［S-Video］に切り換えます。



お知らせ

- 本機のビデオケーブル、S-ビデオケーブルは特殊なケーブルです。延長ケーブルをお求めの際は、販売店または弊社「カスタマーセンター」へご相談ください。

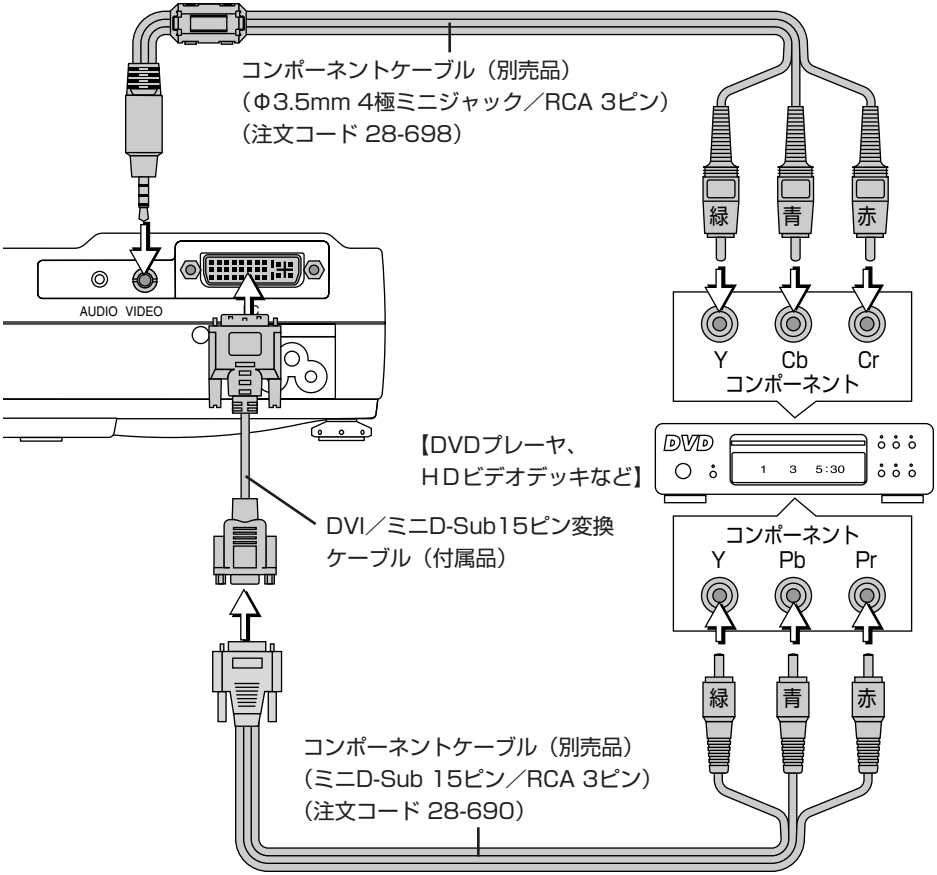
コンポーネント信号との接続

■ 映像機器がYCbCr端子の場合

- 本機のVIDEO端子とコンポーネントケーブルで接続します。
- 本機の入力選択を［YCbCr］に切り換えます。

■ 映像機器がYPbPr端子の場合

- 本機のPC端子にDVI／ミニD-Sub15ピン変換ケーブルを接続し、さらに別売のコンポーネントケーブルと接続します。
- 本機の入力選択を［YPbPr］に切り換えます。

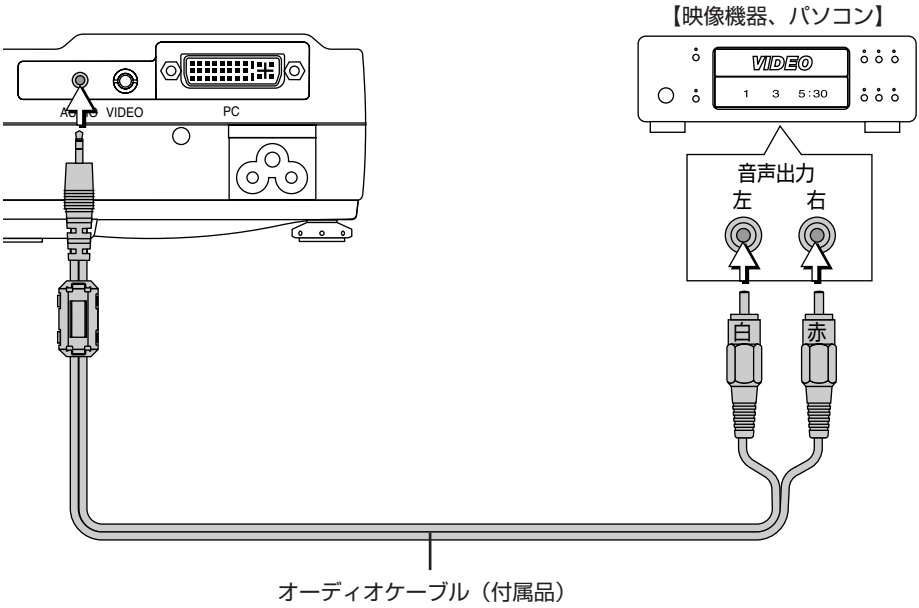


お知らせ

- YCbCrはNTSC 3.58、PAL以外の信号は入力できません。

AUDIO端子との接続

- 本機のAUDIO端子とオーディオケーブルで接続します。
- 本機内蔵スピーカはモノラル音声になります。
- 迫力ある音声で楽しむには、映像機器の音声出力をお手持ちのオーディオシステムと接続してください。



お知らせ

- 本機のAUDIO端子はφ2.5mmのステレオミニジャックです。パソコンや映像機器のヘッドホン端子から一般的なステレオミニジャックケーブル（φ3.5mm）で接続することはできません。

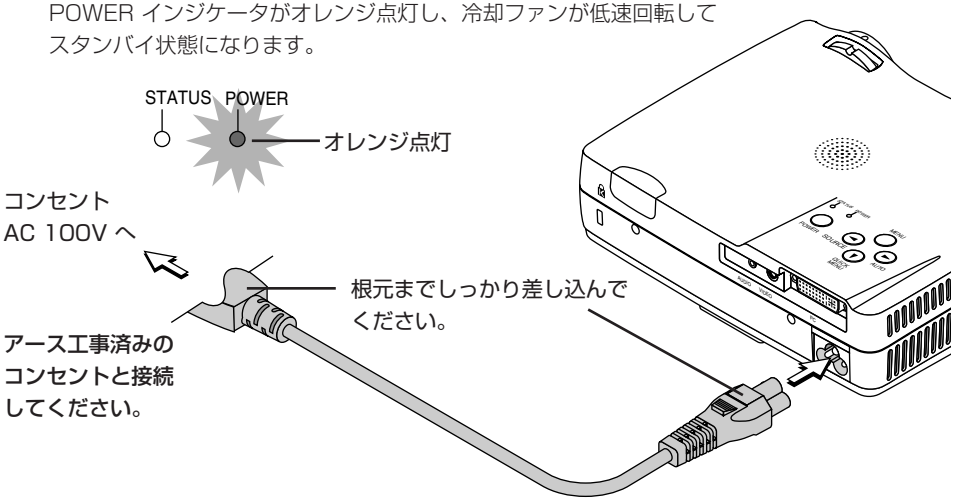
電源コードの接続と入／切

電源コードの接続と電源の入／切には順次があります。

使うとき

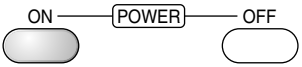
1 本体のAC IN端子とコンセント（AC 100V）を付属の電源コードで接続します。

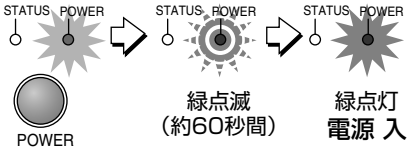
POWER インジケータがオレンジ点灯し、冷却ファンが低速回転してスタンバイ状態になります。



2 プロジェクタの電源を入れる

〈本体操作〉 POWERボタンを押します。
〈リモコン操作〉 POWER ONボタンを押します。





POWERインジケータが緑の点滅に変わり、約60秒後に点灯します。
投映画面は約40秒後に明るくなります。

これでプロジェクタが投映できる状態になりました。

3 接続機器の電源を入れる

お願い

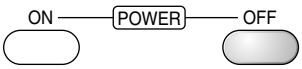
電源プラグをコンセントから抜く場合、容易に手が届くように本機をコンセントの近くに設置してください。

終わったとき

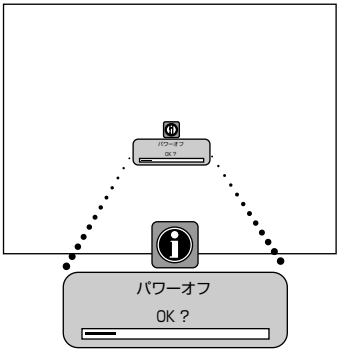
1 接続機器の電源を切る

2 プロジェクタの電源を切る

〈本体操作〉POWERボタンを押します。
〈リモコン操作〉POWER OFFボタンを押します。



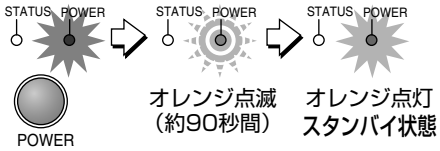
［パワーオフ］表示が出ます。
赤いバーがいっぱい伸びると（約5秒）投映画面が消え、電源を切る動作に入ります。



お知らせ

- POWERボタン以外のボタンを押すと取り消しができます。
- もう一度POWER（POWER OFF）ボタンを押すと、電源が切れます。

POWERインジケータがオレンジの点滅に変わり、約90秒後にオレンジ点灯に（スタンバイ状態）になります。



3 電源コードを抜く

POWERインジケータがオレンジ色に点灯していることを確認してから抜いてください。

電源コードを抜くと、POWER インジケータが消灯します。

ご注意

POWERインジケータがオレンジ点滅中は、電源コードを抜かないでください。ランプの寿命を短くしたり、機器が故障するおそれがあります。

投映画面の調整

接続機器の電源を入れ、映像信号を本機へ入力した状態で行ってください。

投映画面の位置調整

スクリーンに投映画面を合わせます。

スクリーンが水平・垂直に設置されていることをご確認ください。

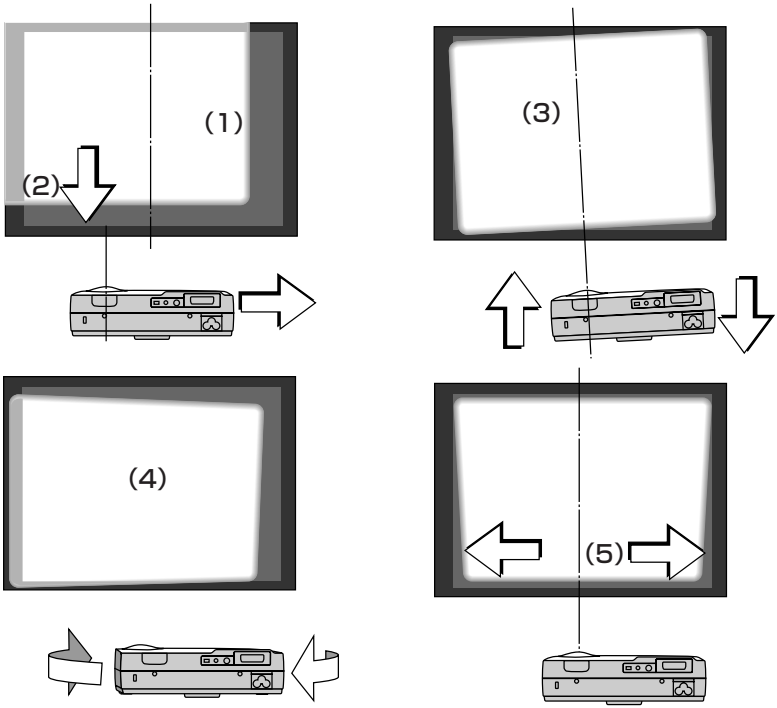
（1）左右方向にずれている場合は本体を横に移動します。（スクリーンの中心と本体レンズの中心を合わせます。）

（2）上下方向にずれている場合はアジャスタで上下方向を調整します。➔31ページ「アジャスタ調整のしかた」

（3）傾いている場合は右または左の前部アジャスタを回して調整します。➔31ページ「アジャスタ調整のしかた」

（4）図の様な投映画面は本体がスクリーンに対して横を向いていますので真っすぐ向けます。
リモコンまたはメニュー操作でも調整できます。➔36ページ「投映画面の台形歪みを補正する」

（5）台形状に歪んでいる場合はリモコンまたはメニュー操作で調整します。➔36ページ「投映画面の台形歪みを補正する」

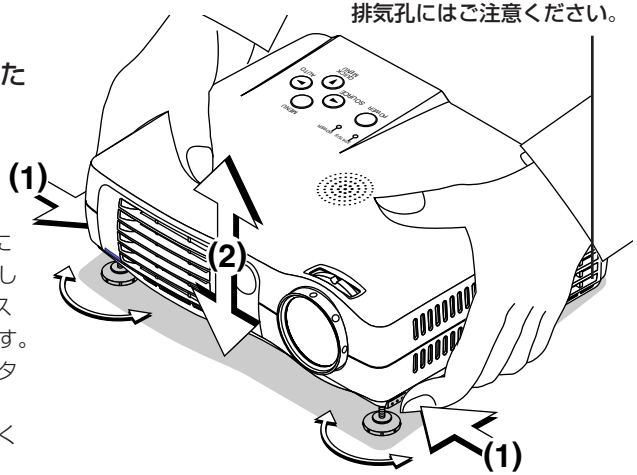


お知らせ

- 投映画面をメニュー操作で上下反転・左右反転することができます。➔52ページ「投映方法」をご覧ください。

ランプの熱が出ていますので
排気孔にはご注意ください。

■ アジャスタ調整のしかた

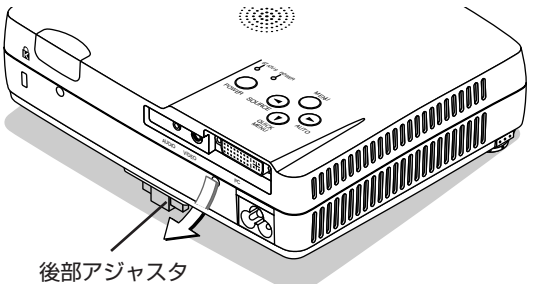


投映画面を上げる場合

投映画面を見ながら（1）左右にある前部アジャスタボタンを押したまま（2）本体を持ち上げてスクリーンに合わせ、指を離します。
微調整は右・左の前部アジャスタを回して行います。
がたつきが無いように調整してください。

投映画面を下げる場合

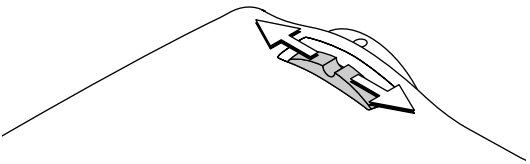
上記の操作で前部アジャスタを下げてください。
後部アジャスタを起こします。
微調整は右・左の前部アジャスタを回して行います。がたつきが無いように調整してください。



フォーカス（焦点）の調整

フォーカスリングを右または左へ回して焦点を合わせます。

投映画面サイズがスクリーンからはみ出たり、小さい場合は本体を前または後ろへ移動し、焦点を合わせ直します。



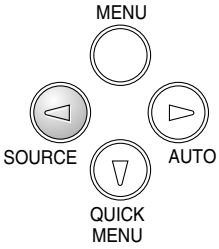
ふだんの操作

本体やリモコンボタンでの直接操作の使い方です。

メニューを使っての操作は➪39ページ「メニュー操作の方法」と➪47～59ページの各項目をご覧ください。

入力の選択

投映する入力信号の選択です。



〈本体操作〉SOURCEボタンを押します。（メニューやクイックメニューを表示しているときは動作しません。）

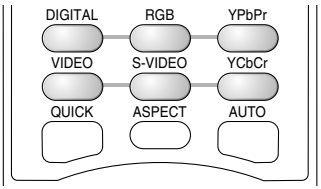
オートソース　オン時

前回使用したソースに入力信号が無い場合、次の入力信号があるソースを自動で選択します。

オートソース　オフ時

前回使用した入力選択状態になります。

ボタンを押すごとに　アナログRGB→YPbPr→デジタルRGB→VIDEO→ S-VIDEO→YCbCr　と切り換わります。



〈リモコン操作〉目的の入力選択ボタンを押します。

オートソース　オン時

選択したソースに入力信号がない場合は、次の入力信号があるソースを自動で選択します。

オートソース　オフ時

入力信号の有無にかかわらず選択したソースに切り換わります。

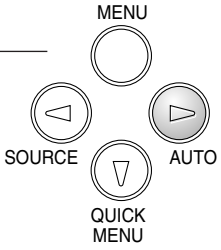
お知らせ

- 入力選択の操作をしない時は、前回使用した入力選択状態になります。
- オートソースのオン／オフにつきましては➪55ページ「オートソース」をご覧ください。
- YPbPrの入力選択は、YPbPrが無効に設定されているときは、選択できません。➪57ページ「YPbPr」をご覧ください。

アナログRGBの自動調整

アナログRGB入力信号の位置ずれや画面の大きさ、縦じま・色ずれを自動で調整します。

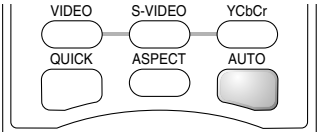
通常は、信号選択時に自動調整されます。



〈本体操作／リモコン操作〉AUTOボタンを押します。

（メニューやクイックメニューを表示しているときは動作しません。）

ボタンを押すと自動調整を開始します。



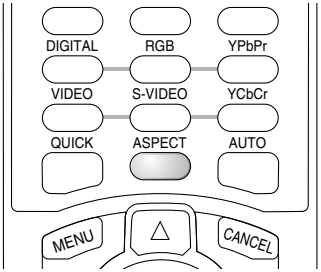
お知らせ

- 自動調整しても表示位置がずれていたり、画面に縦じまがでたり映りが悪い場合は、手動で画像調整を行ってください。➪47ページ「クロック周波数／位相／水平位置／垂直位置」
- 画像が画面よりはみ出す場合や小さい場合は、アスペクトを“オート”に設定します。➪33ページ「アスペクト比の選択」、➪51ページ「アスペクト」

アスペクト比の選択

入力信号の横と縦の画面比率の選択です。

投映映像を見ながらASPECTボタンを押して、画面比を選択します。



パソコンの信号

押すごとに　オート→ダイレクト→リアル　とくり返し変わります。

オート　：自動で4：3に拡大／縮小して画面いっぱいに投映

ダイレクト　：画面比率を維持したまま表示可能な最大の大きさで投映

リアル　：入力信号を画素変換しないで投映

ビデオの信号

押すごとに　オート→ワイド→ズーム　とくり返し変わります。

オート：アスペクト比を維持したまま画面からはみ出す部分が無いように画面いっぱいに投映します。（16：9の映像は上下が黒くなります。）

ワイド：全て16：9で横幅いっぱいに投映します。
（スクイーズ画面を正しいアスペクト比で投映する場合に使います。）

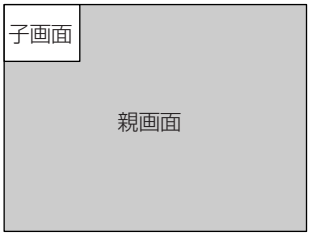
ズーム：16：9やレターボックス中の4：3部分のみを画面いっぱいに投映します。
（はみ出た部分はカットされます）

お願い

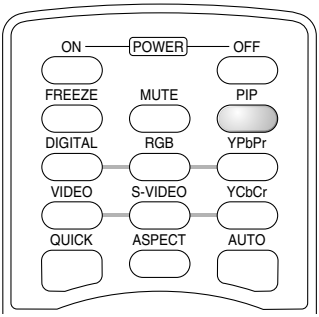
4：3画面をワイドで投映したり、スクイーズ画面をつぶした映像のまま、喫茶店やホテル等で、営利目的または公衆に視聴させる目的として使用すると、著作権法で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますのでご注意ください。

子画面を映す

パソコン画面（PC端子入力の画面）にビデオ映像（VIDEO端子入力の画面）を子画面で映します。



PIPボタンを押すごとに子画面の画面サイズが小→中→大→オフ（子画面表示オフ）とくり返し変わります。

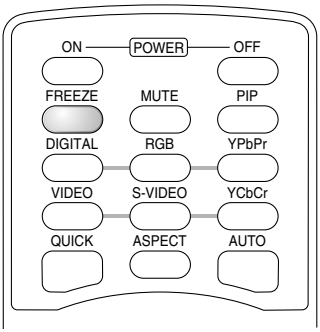


お知らせ

- 親画面がビデオ端子からの映像のとき子画面表示はできません。
- ピクチャインピクチャをオフに設定している場合は、表示しません。
  子画面の サイズを選択することができます。➔35ページ「クイックメニューを使う」、➔54ページ「ピクチャインピクチャ」をご覧ください。
- 子画面の表示位置を変えるには➔54ページ「ピクチャインピクチャ」をご覧ください。
- 親画面とはアナログRGB, デジタルRGB, YPbPrの入力画面を言い、子画面とは VIDEO, S-VIDEO, YCbCr入力画面を言います。

動画を静止画にする

動画を止めて見る場合に使います。静止画状態でも入力映像は進んでいます。



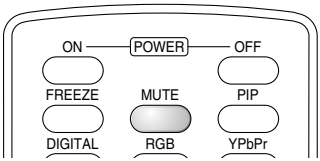
FREEZEボタンを押すと、静止画像に変わります。再び押すと動画に戻ります。

お知らせ

- ピクチャインピクチャ表示時は親画面と子画面の両方が静止画になります。

画像と音声を一時消去する

画像と音声を一時的に消したい場合に使います。

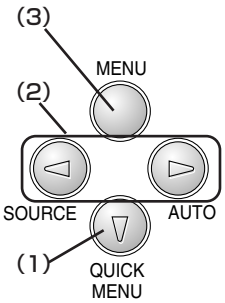


MUTEボタンを押すと、画像と音声が消えます。再び押すともとに戻ります。

クイックメニューを使う

よく使う調整が素早くできます。

接続機器の信号が入力されていないと、クイックメニューは表示しません。調整したい入力を選択してください。

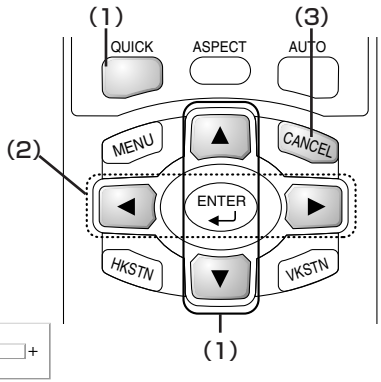


〈本体操作〉

(1) QUICK MENUボタンを押すとクイック調整表示が出ます。
さらに押して目的の調整表示に切り換えます。
(2) ◁または▷ボタンを押して調整します。
(3) すぐ表示を閉じるにはMENUボタンを押します。
約10秒間操作をしないと表示は閉じます。

〈リモコン操作〉

(1) QUICKボタンを押すとクイック調整表示が出ます。
さらに押すと順次調整表示が切り換わります。
カーソル ▼ または ▲ ボタンでも調整表示が切り換わります。
(2) カーソル ◄ または ►ボタンを押して調整します。
(3) すぐ表示を閉じるにはCANCELボタンを押します。
約10秒間操作をしないと表示は閉じます。



【調整・設定の内容】

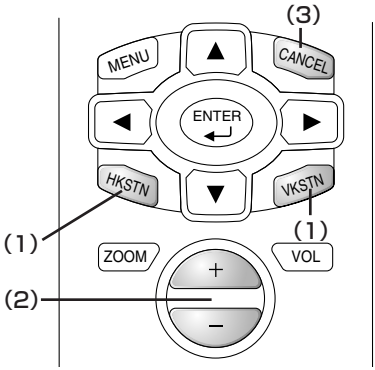
【例：明るさ調整表示】

表示項目　　調整・設定

明るさ	映像の明るさを調整します。 （−）方向は暗くなり、（+）方向は明るくなります。
コントラスト	映像のコントラストを調整します。 （−）方向は淡くなり、（+）方向は濃くなります。
垂直キーストーン	画面の台形状の歪み（垂直）を補正します。 画面の左右端を平行に調整します。
水平キーストーン	画面の台形状の歪み（水平）を補正します。 画面の上下端を平行に調整します。
ピクチャ イン ピクチャ	PC端子からの入力画面にVIDEO端子からの画面を子画面として表示します。その子画面のサイズ（大・中・小）とオフ（表示しない）の選択です。 （PC端子に信号が入力されていないと調整表示および画面は出ません。）子画面の表示位置の変更は➪54ページ参照
ボリューム	内蔵スピーカの音量を調整します。 （−）方向は小さくなり、（+）方向は大きくなります。

投映画面の台形歪みを補正する

投映画面が歪んでいる場合の調整です。
極端に歪んでいると補正できませんので予めプロジェクタをスクリーンに対して真っすぐな向きにしてください。



■ 調整の方法

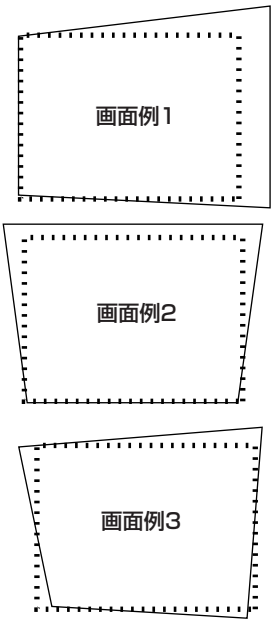
(1) 上下の歪み（画面例1）を調整するにはHKSTNボタンを押します。水平キーストーン調整表示が出ます。

左右の歪み（画面例2）を調整するにはVKSTNボタンを押します。垂直キーストーン調整表示が出ます。

(2) 画面を見ながら＋ボタンまたはーボタンを押して上下または左右を平行に調整します。

画面例3の場合は、水平と垂直キーストーンを調整してください。

(3) すぐ表示を閉じるにはCANCELボタンを押します。
約10秒間操作をしないと表示は閉じます。

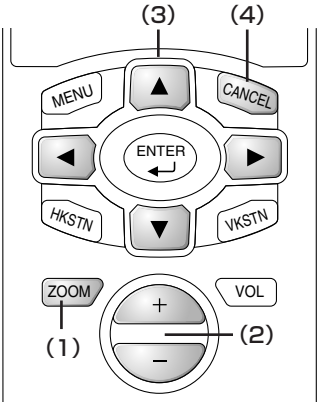


お知らせ

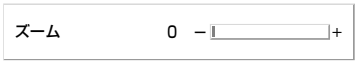
- キーストーンの調整値を上書き保存するこができます。➔53ページ「キーストーン」
- 水平キーストーンの補正値を多くとると垂直キーストーンの調整範囲が狭くなり、垂直キーストーンの補正値を多くとると水平キーストーンの調整範囲が狭くなります。
  また、調整条件によっても調整範囲が異なります。
- 画面例は説明のため誇張して描いています。

映像の拡大と画像移動

パソコン画像、ビデオ映像をデジタル拡大（最大10倍）します。



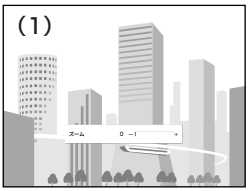
(1) ZOOMボタンを押します。
ズーム選択表示が出ます。



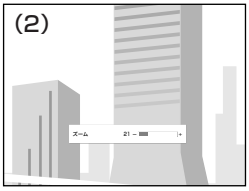
(2) 目的の大きさに拡大します。
＋ボタンを押すごとに拡大し、－ボタンを押すごとに縮小（1：1 に戻る）します。

(3) ズーム中に、カーソル（▼▲◄ ► ）ボタンを押すと表示位置が移動します。
（ズーム 0 のときは移動しません。）

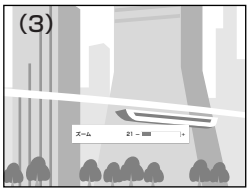
(4) すぐ表示を閉じるにはCANCELボタンを押します。
約10秒間操作をしないと表示は閉じます。



（拡大無し）



（約2倍拡大）



（移動）

お知らせ

- 拡大の操作が終了したら、必ずZOOMボタンでゲージ値を“0”に戻してください。

■次の場合も画像の移動ができます。

- パソコンの信号で［アスペクト］を“リアル”に設定し、かつ、プロジェクタの表示解像度より入力解像度の方が高い場合
- ビデオの信号で［アスペクト］を“ズーム”に設定している場合

お知らせ

- ズームおよび画像移動は、入力を切り換えると解除されます。
- ズームは拡大率が大きいほど画像がぼけてみえます。これはドットを目立たなくするためにデジタル補正しているためです。
- メニュー画面を表示している時には、画面の移動はできません。

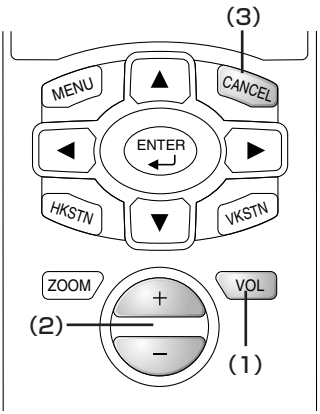
音量の調整

内蔵スピーカの音量調整です。

(1) VOLボタンを押します。
音量調整表示が出ます。

(2) 音量を調整します。
＋ボタンは音量が大きくなり、－ボタンは音量が小さくなります。

(3) すぐ表示を閉じるにはCANCELボタンを押します。
約10秒間操作をしないと表示は閉じます。



お知らせ

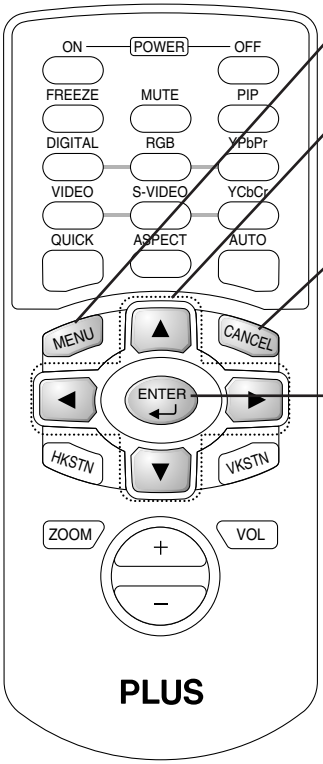
- 映像が投映されていないときは、音量を調整しても音はでません。

メニュー操作の方法

- ●メニューの操作方法のみを説明します。メニュー操作中にわからなくなったらこのページをご覧ください。
- ●メニューの機能や調整・設定のしかたは各々の説明ページをご覧ください。
- ●調整・設定は映像を映して、最適な状態に調整します。
- ●リモコンはプロジェクタのリモコン受光部に向けて操作してください。
- ●メニューで変更した色々な項目を標準値（工場出荷時の状態）に戻す場合は➪58ページ「初期化」をご覧ください。（初期値に戻らない項目もあります。）
- ●入力選択によって調整／設定項目や内容が異なり、その入力信号で可能な調整／設定項目をメニュー表示します。

各部の名称とはたらき

■ メニュー操作で使用するリモコンボタンの名称とはたらき



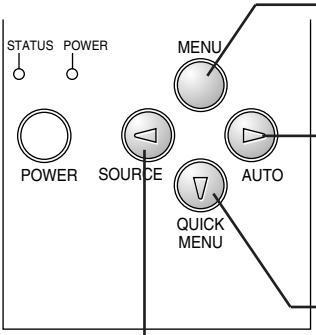
〈MENUボタン〉
メニューの表示とメニューを閉じるときに使います。

〈カーソル（▼▲◄►）ボタン〉
メニュー名の選択と項目名の選択、項目内容の設定・調整に使います。

〈CANCELボタン〉
メニュー名選択に戻すときとメニューを閉じる（サブメニューの表示を閉じる）ときに使います。

〈ENTERボタン〉
決定に使います。

■ メニュー操作で使用する本体ボタンの名称とはたらき



〈MENUボタン〉
メニューの表示、メニュー名選択に戻す、メニューを閉じる（サブメニューの表示を閉じる）ときに使います。

〈▷（AUTO）ボタン〉
メニュー名の選択を進めます。項目内容の設定・調整値を進めます。
リモコンのENTERボタンのはたらきもします。

〈▽（QUICK MENU）ボタン〉
項目名の選択に使います。

〈◁（SOURCE)ボタン〉
メニュー名の選択を戻します。項目内容の設定・調整値を戻します。

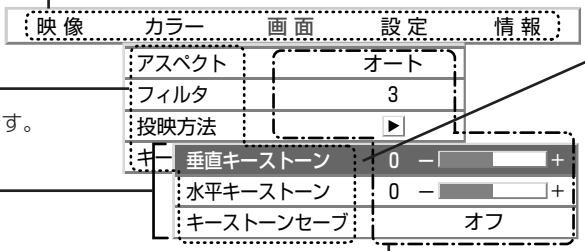
■ メニュー画面の名称とはたらき

〈メニュー名〉
メニューの見出しです。メニューを選択すると見出しの画面に変わります。選択されたメニュー名は赤色になります。

〈カーソル（紺色）〉
カーソル位置の項目の設定／調整ができます。

〈項目名〉
調整・設定の名称です。

〈サブメニュー〉



調整バー・設定内容
調整バー：バーの増減で調整状態を表します。
設定内容：設定されている内容を表示します。
▶ アイコン：サブメニューや設定内容を表示します。

メニュー操作のしかた

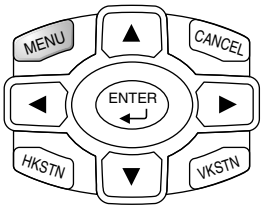
- **本体ボタンのメニュー操作とリモコンボタンでのメニュー操作は異なります。**
  リモコン操作で説明し、異なる動作をする場合のみ〈本体操作〉として説明いたします。
- **信号を入力していないときは、［カラー］、［設定］、［情報］のみ選択できます。**
  （［カラー］はビデオ系のみ選択できます。）
- **ボタンを押して30秒間次のボタン操作をしないと、メニュー表示は閉じます。**
- **調整・設定値は電源を切っても、コンセントを抜いても記憶しています。**
  （記憶しない項目もあります。）

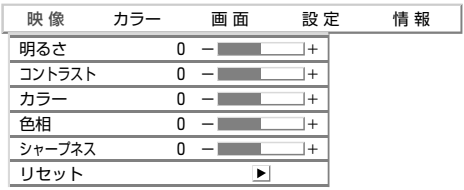
準備 **接続機器の電源を入れ、再生操作などをして本機に信号を入力してください。調整したい入力を選択してください。**

説明図のメニュー表示は項目名［水平キーストーン］を選択する場合の例です。

メニューの表示

1 **MENUボタンを押して、メニューを表示させる**





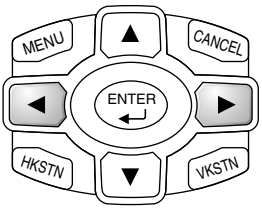
前回メニューを閉じたときのメニュー名を表示します。

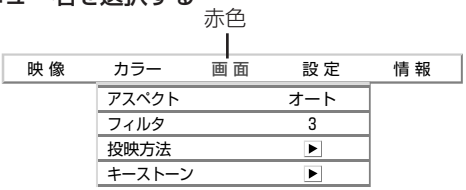
お知らせ

〈本体操作〉MENUボタンを押すとSOURCEボタン、AUTOボタン、QUICK MENUボタンはカーソルボタンの働きに変わります。

メニュー名の選択

2 **カーソル（◄ ►）ボタンを押してメニュー名を選択する**





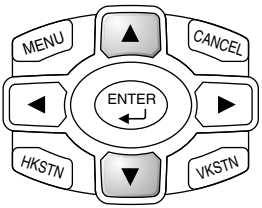
カーソル（►）ボタンを押すごとに［カラー］→［画面］→［設定］→［情報］→［映像］の方向へ順次変わります。カーソル（◄）ボタンは押すごとに戻ります。
選んだメニュー名は赤色になります。

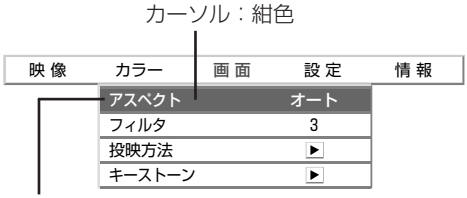
お知らせ

- メニュー名選択時は項目名のカーソルが消えていることをご確認ください。
  カーソルを消すには、リモコンボタンではCANCELボタン、本体ボタンではMENUボタンを押します。

カーソルを出す

3 カーソル（▼）ボタンを押してカーソルを出す

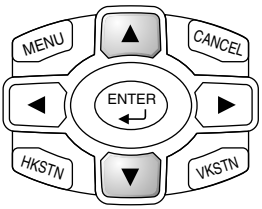


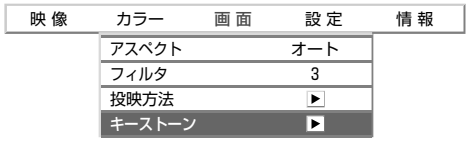


この状態で項目名の選択ができます。

項目名の選択

4 カーソル（▼▲）ボタンを押してカーソルを項目名に合わせる





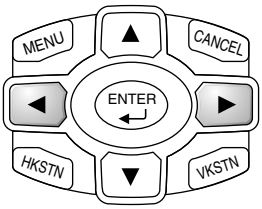
〈本体操作〉 ▽（QUICK MENU）ボタンを押します。項目の一番下に移動したとき、さらに押すと項目の一番上に移動します。

説明図の例［キーストーン］は ▶ アイコンを表示していますので、カーソル（▶）ボタンを押します。サブメニューを表示します。
カーソル（▼）ボタンを押してカーソルを目的の項目名に合わせます。
項目内容によっては ▶ アイコンを表示している場合、カーソル（▶）ボタンを押すと設定表示、調整値のリセット、リセット確認表示が出ます。各項目説明をご覧ください。

調整／設定をする

5 カーソル（◄ ►）ボタンを押して画像を見ながら調整（または設定）する

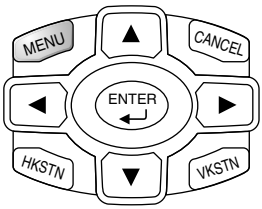
ボタンを押すと画像も変化します。



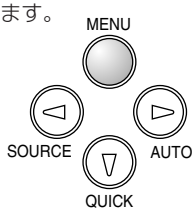
調整表示の場合は、押すごとに順次変化し、押し続けると順次変化していきます。
設定表示の場合は、設定内容表示が押すごとに切り換わります。

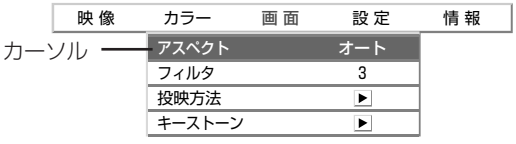
終わる

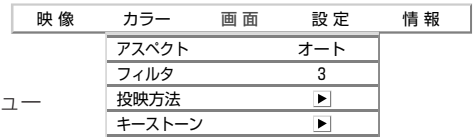
6 MENUボタンを押してメニュー表示を閉じる



〈本体操作〉 MENUボタンを押して、カーソルを消してください。
サブメニューを表示しているときは、MENUボタンを押してサブメニューを閉じ、さらに押してカーソルを消します。この状態でメニュー名の選択ができます。



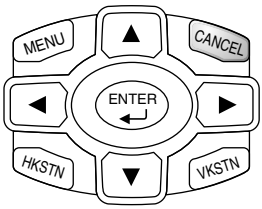


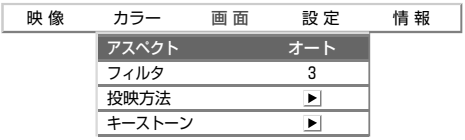


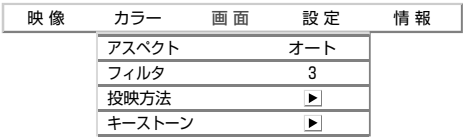
カーソルを消した状態で、
MENUボタンを押すとメニュー
表示が閉じます。

■リモコン操作で、他のメニュー名を選択する場合

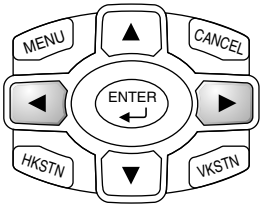
サブメニューを表示している場合は、CANCELボタンを押してサブメニューを閉じます。
さらにCANCELボタンを押してカーソルを消します。

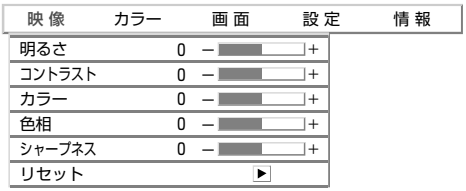






カーソル（◄ ►）ボタンを押してメニュー名を選択してください。（カーソルを表示しているとメニュー名の選択はできません。）





お知らせ

- メニュー表示中にQUICKボタンを押すと、メニューを閉じクイックメニューを表示します。また、クイックメニュー表示中にMENUボタンを押すとクイックメニューを閉じてメニューを表示します。

入力選択と調整／設定可能な項目名の一覧表

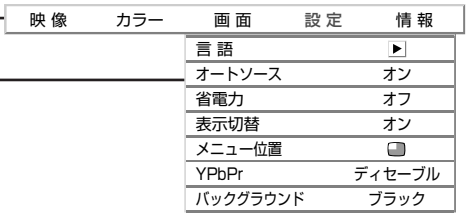
入力信号によっては調整／設定できる項目名が異なります。

【入力信号VIDEO選択時のメニュー表示項目例】

メニュー名	項目名	サブメニュー項目名	アナログRGB	デジタルRGB	YPbPr	YCbCr	VIDEO	S-VIDEO	参照ページ
映像	明るさ		○	○	○	○	○	○	47
	コントラスト		○	○	○	○	○	○	47
	クロック周波数		○						47
	位相		○						48
	水平位置		○						48
	垂直位置		○						48
	カラー					○	○	○	47
	色相						○	○	47
	シャープネス					○	○	○	47
	リセット		○	○	○	○	○	○	48
カラー	ガンマ		○	○	○	○	○	○	49
	色温度		○	○	○	○	○	○	49
	カラー方式					○	○	○	49
	カラースペース				○	○			50
画面	アスペクト		○	○	○	○	○	○	51
	フィルタ		○	○	○	○	○	○	52
	投映方式	上下反転	○	○	○	○	○	○	52
		左右反転	○	○	○	○	○	○	52
	キーストーン	垂直キーストーン	○	○	○	○	○	○	53
		水平キーストーン	○	○	○	○	○	○	53
		キーストーンセーブ	○	○	○	○	○	○	53
	ピクチャ インピクチャ	サイズ	○	○	○				54
		位置	○	○	○				54

［色相］はNTSC方式のコンポジット／S信号入力時のみ調整できます。

【入力信号VIDEO選択時のメニュー表示項目例】



メニュー名	項目名	サブメニュー項目名	入力信号 アナログRGB	デジタルRGB	YPbPr	YCbCr	VIDEO	S-VIDEO	参照ページ
設 定	言語		○	○	○	○	○	○	55
	オートソース		○	○	○	○	○	○	55
	省電力		○	○	○	○	○	○	56
	表示切替		○	○	○	○	○	○	56
	メニュー位置		○	○	○	○	○	○	56
	YPbPr		○	○	○	○	○	○	57
	バックグラウンド		○	○	○	○	○	○	57
	ホワイトバランス		○						57
情 報	ステータス		○	○	○	○	○	○	58
	初期化		○	○	○	○	○	○	58
	ランプ使用時間リセット		○	○	○	○	○	○	58
	解像度		○	○					59
	周波数		○	○					59
	ランプ使用時間		○	○	○	○	○	○	59

映　像

● **調整／設定したい画像を映した状態で操作してください。**

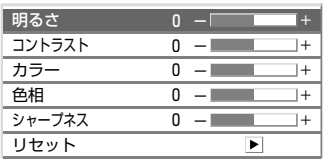
● **メニュー名［映像］を選んでください。**

メニュー操作のしかたは、➔39～46ページ「メニュー操作の方法」をご覧ください。

入力信号によって項目名表示が異なります。➔45、46ページ「入力選択と調整／設定可能な項目名の一覧表」をご覧ください。

明るさ／コントラスト／カラー／色相／シャープネス

明るい部屋、暗い部屋によって明るさやコントラストなどがかわります。お好みに調整してください。



目的の項目名を選んでから、カーソル（◄►）ボタンで調整します。

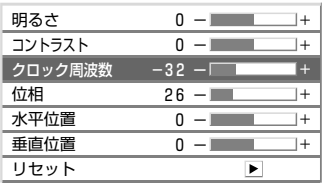
項目名	カーソル（◄）ボタン	カーソル（►）ボタン
明るさ	暗くなります	明るくなります
コントラスト	画像が淡くなります	画像が濃くなります
カラー	色が淡くなります	色が濃くなります
色相	赤みがかります	緑がかります
シャープネス	やわらかい画像になります	くっきりした画像になります

お知らせ

- 調整可能な項目の調整値は、入力ソース別に記憶されます。
- ［色相］はNTSC 方式のコンポジット／S信号入力時のみ調整できます。

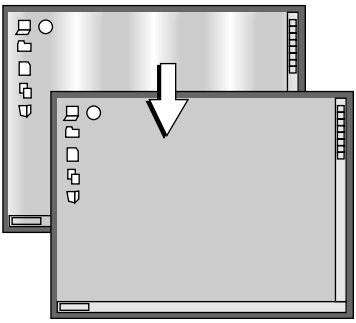
クロック周波数／位相／水平位置／垂直位置

アナログRGB信号を入力している場合の調整です。
通常は信号選択時に自動調整しますが、自動調整しきれない場合に調整します。



お知らせ

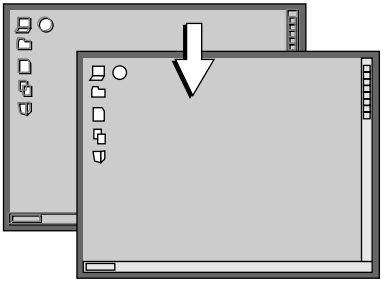
- 画像が画面よりはみ出す場合や小さい場合は、メニューの［画面］→［アスペクト］設定が“オート”に設定されていることをご確認ください。➔51ページ「アスペクト」



■クロック周波数

画面に明暗の縦帯が出ている場合に調整します。

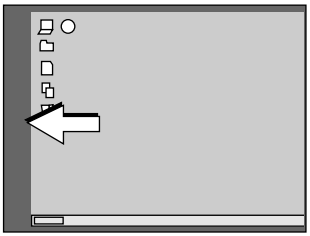
項目名［クロック周波数］を選択し、カーソル（◄►）ボタンで縦帯が取れて、画面の明るさが一定になるように調整します。



■位相

画面の色ズレ、ちらつきが出ている場合に調整します。

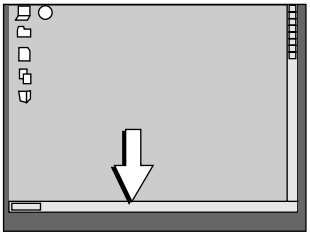
項目名［位相］を選択し、カーソル（◄►）ボタンで色ズレやちらつきが目立たなくなるように調整します。



■水平位置

画面が左または右にずれているときに調整します。

項目名［水平位置］を選択し、カーソル（◄►）ボタンで調整します。



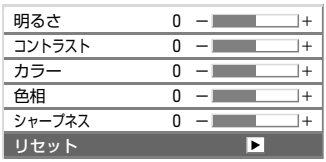
■垂直位置

画面が上または下にずれているときに調整します。

項目名［垂直位置］を選択し、カーソル（◄►）ボタンで調整します。

リセット

メニュー名の［映像］の調整／設定値をリセット（標準設定に戻す）します。



カーソル（►）ボタンを押すとリセットされます。

お知らせ

- アナログRGB入力時の項目名“位相”はリセットされません。
- メニュー名［映像］の［リセット］は各入力ソース毎にリセットすることができます。
- 全てのメニュー項目の調整／設定をリセットするには（リセットしない項目もあります）、➪58ページ「初期化」をご覧ください。

カラー

● **メニュー名［カラー］を選んでください。**

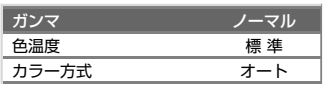
メニュー操作のしかたは、➪39～46ページ「メニュー操作の方法」をご覧ください。

入力信号によって項目名表示が異なります。➪45、46ページ「入力選択と調整／設定可能な項目名の一覧表」をご覧ください。

ガンマ

ガンマは入力信号の明るい部分から暗い部分の変化の割合を補正します。
自然な色合いを再現したり、明るい会議室でパソコン画像をくっきりと投映するときなどに設定します。

項目名［ガンマ］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで設定内容を選択します。



ノーマル ……標準的な補正をします。
ナチュラル ……自然な色合いになるように補正します。
リアル ……明るさ重視の補正をします。

色温度

スクリーンは照明などの外光色に影響をうけます。
映像機器の基本色である白色を調整して色の再現性を高めます。また肌色重視の映像にすることもできます。

項目名［色温度］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで設定内容を選択します。

低 ……暖色系の白（赤みがかる）になります。
中 ……暖色系の白（黄みがかる）になります。
標準 ……日光の白になります。
高 ……寒色系の白（青みがかる）になります。

カラー方式

ビデオ信号のカラー方式の設定です。
通常はオートに設定してください。オートで識別できない場合に設定します。

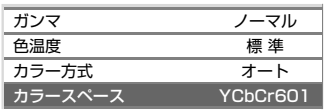
項目名［カラー方式］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで設定内容を選択します。

オート ……自動識別します。
NTSC ……NTSC方式に固定します。
PAL……PAL方式に固定します。
SECAM …SECAM方式に固定します。

カラースペース

コンポーネント信号（YCbCrまたはYPbPr）を映したとき、赤っぽい映像、緑っぽい映像のときに設定します。

項目名［カラースペース］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで正常な映像になるカラースペースを選択します。



YCbCr入力時の選択内容
YCbCr601、YCbCr709、YCbCrSMPT

YPbPr入力時の選択内容
YPbPr601、YPbPr709、YPbPrSMPT

お知らせ

- コンポーネント信号をプロジェクタの映像表現である赤・緑・青色に変換処理する場合、入力信号の色差変換方式に準拠した方式を使用しないと正しい色が再現できません。これを選択するのがカラースペースです。

画 面

● **調整／設定したい画像を映した状態で操作してください。**

● **メニュー名［画面］を選んでください。**

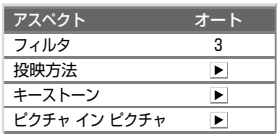
メニュー操作のしかたは、➪39～46ページ「メニュー操作の方法」をご覧ください。

入力信号によって項目名表示が異なります。➪45、46ページ「入力選択と調整／設定可能な項目名の一覧表」をご覧ください。

アスペクト

入力信号の横と縦の画面比率の設定です。

項目名［アスペクト］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで設定内容を選択します。

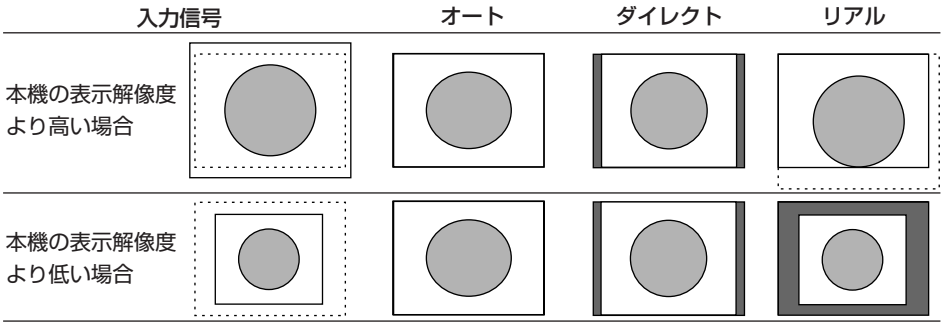


パソコンの信号

オート ……自動で4：3に拡大／縮小して画面いっぱいに投映

ダイレクト ……画面比率を維持したまま表示可能な最大の大きさで投映

リアル ……入力信号を画素変換しないで投映

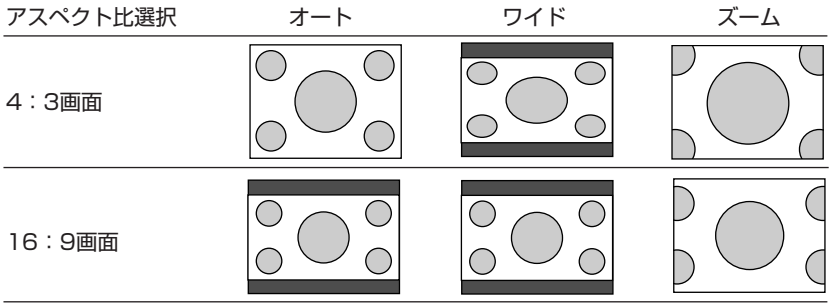


ビデオの信号

オート……アスペクト比を維持したまま画面からはみ出す部分が無いように画面いっぱいに投映します。（16：9の映像は上下が黒くなります。）

ワイド……全て16：9で横幅いっぱいに投映します。
（スクイーズ画面を正しいアスペクト比で投映する場合に使います。）

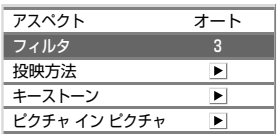
ズーム……16：9やレターボックス中の4：3部分のみを画面いっぱいに投映します。
（はみ出た部分はカットされます）



フィルタ

入力信号を本機の解像度に合わせて拡大または縮小するときの鮮明度の設定です。

項目名［フィルタ］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで設定内容を選択します。

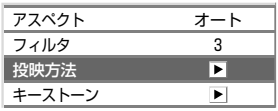


数値の少ない方がシャープになり、大きい方がソフトな画像になります。お好みの設定値を選択してください。

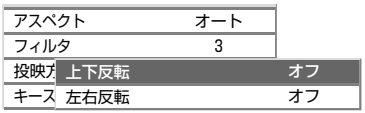
投映方法

スクリーンへの投映方法の選択で、プロジェクタを正面投映や背面投映する場合に設定します。

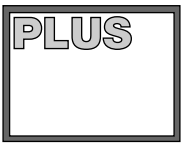
1. 項目名［投映方法］を選択し、カーソル（►）ボタンを押します。サブメニューが開きます。



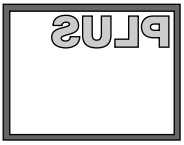
2. ［上下反転］または［左右反転］をカーソル（▼▲）ボタンで選択し（〈本体操作〉は（▽）ボタン）、カーソル（◄ ►）ボタンで“オン”“オフ”を設定します。



［上下反転］オフ
［左右反転］オフ

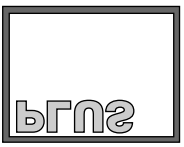


［上下反転］オフ
［左右反転］オン



［上下反転］オン
［左右反転］オン

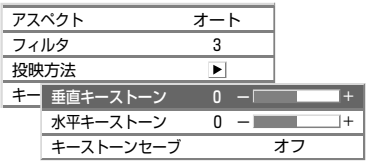
［上下反転］オン
［左右反転］オフ



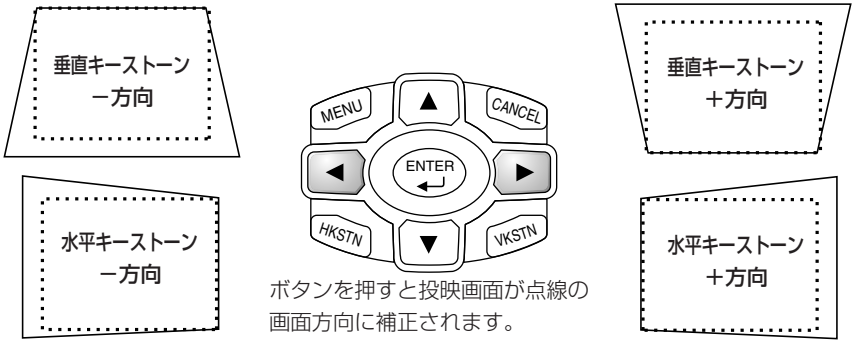
キーストーン

スクリーンの投映画面の台形状の歪みを補正する機能です。上下方向、左右方向が平行になるように調整します。

1. 項目名［キーストーン］を選択し、カーソル（►）ボタンを押します。サブメニューが開きます。



2. ［垂直キーストーン］または［水平キーストーン］をカーソル（▼▲）ボタンで選択し（〈本体操作〉は▽ボタン）、カーソル（◄►）ボタンで調整します。



ボタンを押すと投映画面が点線の画面方向に補正されます。

お知らせ

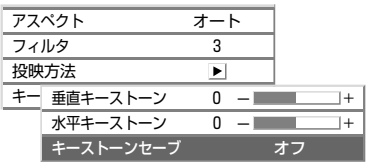
- 水平キーストーンの補正値を多くとると垂直キーストーンの調整範囲が狭くなり、垂直キーストーンの補正値を多くとると水平キーストーンの調整範囲が狭くなります。
  また、調整条件によっても調整範囲が異なります。
- メニューなどのオンスクリーン表示は調整しません。

■キーストーンセーブ

キーストーン調整値を保存するときに使います。

キーストーンセーブをオンに設定しておくと電源コードを抜いて、再び電源コードを接続して投映した場合でも、前のキーストーン調整値になります。

1. 項目名［キーストーン］を選択し、カーソル（►）ボタンを押します。サブメニューが開きます。
2. ［キーストーンセーブ］をカーソル（▼▲）ボタンで選択し（〈本体操作〉は▽ボタン）、カーソル（◄►）ボタンで設定します。



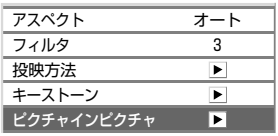
オフ ……電源コードを抜くと、キーストーン調整値は初期値に戻ります。
オン ……電源コードを抜いても、キーストーン調整値を保存しています。

お知らせ

- キーストーンセーブが“オン”“オフ”どちらの設定でも、電源コードを抜かないかぎり調整値は保存されています。

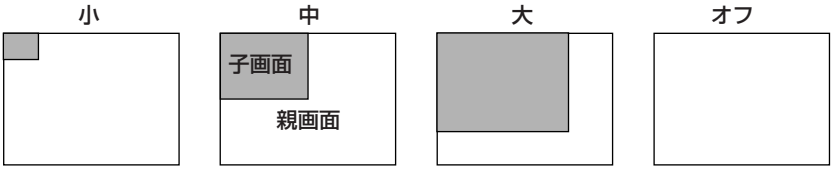
ピクチャインピクチャ

PC端子からの入力画面（親画面）にVIDEO端子からの画面を子画面として表示します。その子画面のサイズと表示位置の設定です。



1. 項目名［ピクチャインピクチャ］を選択し、カーソル（►）ボタンを押します。サブメニューが開きます。
2. ［サイズ］または［位置］をカーソル（▼▲）ボタンで選択し（〈本体操作〉は▽ボタン）、カーソル（◄ ►）ボタンで設定します。

サイズの設定



位置の設定

- 親画面の左上に表示
- 親画面の右上に表示
- 親画面の中央に表示
- 親画面の左下に表示
- 親画面の右下に表示

お知らせ

- PC端子に入力されている信号によって、子画面のサイズは異なります。
- PC端子に信号が入力されていないと調整表示および画面は出ません。
- 親画面の信号種類によっては［小］または［大］が設定できない場合があります。

設　定

● **メニュー名［設定］を選んでください。**

メニュー操作のしかたは、➪39～46ページ「メニュー操作の方法」をご覧ください。
入力信号によって項目名表示が異なります。➪45、46ページ「入力選択と調整／設定可能な項目名の一覧表」をご覧ください。

言　語

メッセージやメニュー表示などのオンスクリーンに表示する言語の設定です。

1. 項目名［言語］を選択し、カーソル（►）ボタンを押します。選択表示が開きます。

2.カーソル（▼▲）ボタンで選択します（〈本体操作〉は▽ボタン）。

オートソース

オートソースは電源を入れたとき、入力を切り換えたときに入力されている信号を自動で検出する機能です。

項目名［オートソース］を選択し、カーソル（◄►）ボタンで設定内容を選択します。

オン　……自動検出機能を入れます。
オフ　……自動検出機能を切ります。

信号検出順は…
アナログRGB→YPbPr→デジタルRGB→VIDEO→ S-VIDEO→YCbCr　をくり返し検索します。
信号を検出すると検索をやめ投映します。

お知らせ

- コンポーネント信号のYPbPrを入力するときは［YPbPr］を“イネーブル”（有効）に設定してください。“ディセーブル”に設定されていると検出されません。

省電力

プロジェクタの入力が無信号状態になったとき、自動でプロジェクタの電源を切ります。

項目名［省電力］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで設定内容を選択します。

オン ……無信号時に電源を切ります。
オフ ……無信号でも電源は切りません。

オン時の動作

- 無信号状態が約10秒つづくと、“No Signalパワーオフ”表示が出ます。約5分後に電源が切れます。
- 表示が出ている間に、信号を入力する、POWERボタン以外の操作ボタンを押すと表示を閉じて解除されます。

お知らせ

- ビデオデッキなどには再生が終了するとビデオデッキ側からブルーバックなどの映像を出力する機器があります。この場合は本機に信号が入っていますので動作しません。

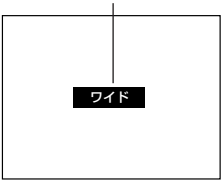
表示切替

黒枠で表示するメッセージをオン／オフします。

項目名［表示切替］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで設定内容を選択します。

オン ……メッセージを表示します。
オフ ……メッセージを表示しません。

ASPECTボタンを押したときの表示例

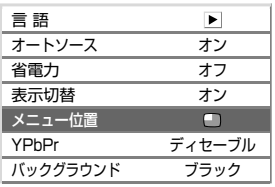


お知らせ

- オフに設定しても黒枠でないメッセージは表示します。

メニュー位置

メニューの表示位置を設定します。



項目名［メニュー位置］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで設定内容を選択します。

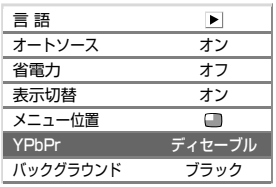
……左側に表示します。
……右側に表示します。

YPbPr

コンポーネントのYPbPr信号を本機で受付けなくする設定です。

項目名［YPbPr］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで設定内容を選択します。

ディセーブル ……無効になり、入力選択ができません。
イネーブル ……有効になり、入力選択が可能になります。



バックグラウンド

入力ソースが無信号時の画面色の設定です。

項目名［バックグラウンド］を選択し、カーソル（◄ ►）ボタンで設定内容を選択します。

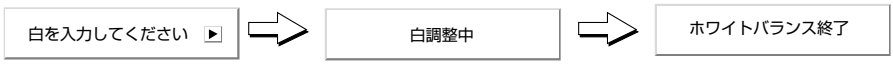
ブラック ……無信号時ブラック画面になります。
ブルー ……無信号時ブルー画面になります。

ホワイトバランス

アナログRGB入力信号の黒レベルと白レベルをパソコンに合うように自動調整します。これにより色の再現性が高まります。

1. 項目名［ホワイトバランス］を選択し、カーソル（► ）ボタンを押します。［黒を入力してください］の表示に変わります。
2. 接続しているPCの画面の背景を黒にします。
3. カーソル（► ）ボタンを押します。［黒調整中］の表示に変わり黒レベルを調整します。

4. 黒レベルの調整が終わり、［白を入力してください］の表示に変わります。
5. 接続しているPCの画面の背景を白にします。
6. カーソル（► ）ボタンを押します。［白調整中］の表示に変わり白レベルを調整します。



［ホワイトバランス終了］をしばらく表示して、調整を終了します。

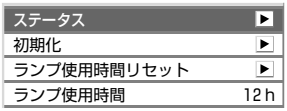
情　報

● **メニュー名［情報］を選んでください。**

メニュー操作のしかたは、➪39～46ページ「メニュー操作の方法」をご覧ください。
入力信号によって項目名表示が異なります。➪45、46ページ「入力選択と調整／設定可能な項目名の一覧表」をご覧ください。

ステータス

機器の情報を表示します。

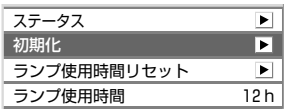


項目名［ステータス］を選択し、カーソル（►）ボタン押します。

表示内容
本機の型名･バージョン情報･プラスビジョン株式会社のインターネットホームページアドレス

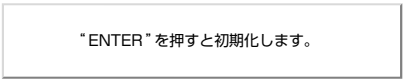
初期化

全ての入力ソースの調整や設定を標準（工場設定値）に戻します。



項目名［初期化］を選択し、カーソル（►）ボタンを押します。
［“ENTER”を押すと初期化します。］の表示がでます。

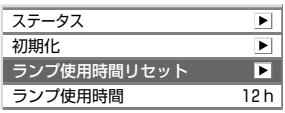
ENTERボタンを押すと初期化されます。
〈本体操作〉▷（AUTO）ボタンを押します。



初期化されない項目
投映方法・YPbPr・言語・ランプ使用時間

ランプ使用時間リセット

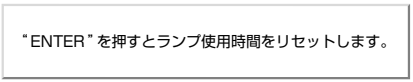
ランプの使用時間をリセットします。ランプカートリッジを交換したときは必ずリセット操作を行ってください。



項目名［ランプ使用時間リセット］を選択し、カーソル（►）ボタン押します。

［“ENTER”を押すとランプ使用時間をリセットします。］の表示がでます。

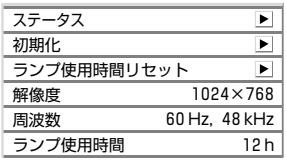
ENTERボタンを押すと初期化されます。
〈本体操作〉▷（AUTO）ボタンを押します。



解像度／周波数

検出された入力信号の解像度と周波数を表示します。

アナログRGBまたはデジタルRGB信号を入力し、さらにアナログRGBまたはデジタルRGBの入力選択をしていないと表示されません。

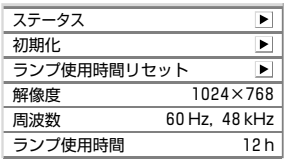


ランプ使用時間

ランプ使用時間を表示します。

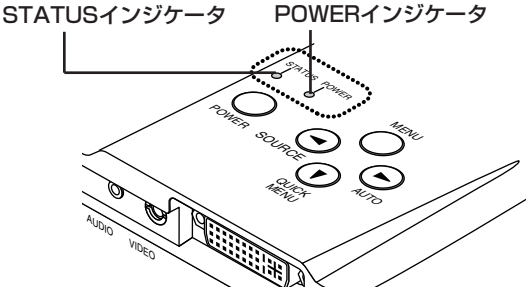
ランプ使用時間が1000時間を超えると、画面上に［ランプを交換してください］と1分間隔で10秒間表示します。
新しいランプと交換してください。
ランプカートリッジ交換のしかたは➪65ページ「ランプカートリッジの交換」をご覧ください。

さらに、1100時間を超えると、［警告!!システムシャットダウン］と10秒間表示して電源を切ります。

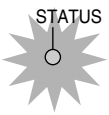
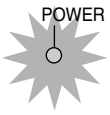


STATUSインジケータが点灯／点滅しているときは

本体操作部のSTATUSインジケータが点灯したり点滅しているときは、下記の異常を知らせています。



STATUS インジケータ	POWER インジケータ	行ってください
STATUS 赤点滅 （0.5秒点灯／0.5秒消灯）	POWER 赤点灯	**温度が異常に高くなっています** ● 温度プロテクタが作動しています。室温が高い場合は、プロジェクタを涼しい場所へ移動してください。プロジェクタの内部温度が高い場合は、冷却ファン通風孔を調べて、目詰まりしているときは掃除をしてください。 ● 温度プロテクタが作動すると電源が切れ、すぐ電源を入れても、電源が入らないことがあります。その場合は1分間待ってからもう一度電源を入れてください。
STATUS 赤点滅 （1秒点灯／1秒消灯）	POWER	**ランプが点灯しません** 1分以上待って再度電源を入れてください。それでもなおらない場合は、電源コードを抜き、販売店または弊社「カスタマーセンター」にご相談ください。
	使用中にランプが切れた場合：オレンジ90秒点滅してからオレンジ点灯 **最初からランプがつかない場合**：オレンジ点灯	
STATUS 赤点滅 （0.5秒点灯／0.5秒消灯）	POWER オレンジ点灯	**ファンが停止しています** 電源コードを抜き、販売店または弊社「カスタマーセンター」へ修理を依頼してください。
STATUS 赤点滅 （1秒点灯／1秒消灯）	POWER 赤点灯	**ランプカバーが開いています** ランプカバーが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください。

STATUS インジケータ	POWER インジケータ	行ってください
 赤点灯	 電源ON時：緑点灯 電源OFF時：オレンジ点灯	**ランプ交換時期です** ランプ使用時間が1000時間を超えました。ランプカートリッジを交換してください。
赤点灯	オレンジ90秒点滅後オレンジ点灯	**ランプ寿命です** ランプ使用時間が1100時間を超えました。ランプは点灯しません。ランプカートリッジを交換してください。

■ 温度プロテクタについて

プロジェクタ内部の温度が異常に高くなるとSTATUSインジケータが（1秒間に1回の間隔で）赤点滅し、POWERインジケータは赤点灯します。
同時に温度プロテクタが働いてプロジェクタの電源が切れます。
このときは、以下のことを行ってください。

1. **電源を切り電源プラグをコンセントから抜きます。**
2. **次の事項を確認し、必要な処置をしてください。**
   周囲温度が高い場所に置いて使用しているときは、涼しい場所に設置しなおしてください。
   排気孔、吸気孔を調べて、目詰まりしているときは掃除をしてください。
3. **プロジェクタの温度が下がるまで、約60分待ってください。**
   以上のことを行っても解決しないときは、販売店または弊社「カスタマーセンター」にご相談ください。

故障かな？と思ったら

■修理を依頼される前に、つぎのことをご確認ください。

このようなとき	確認してください	参照ページ
電源が入らない	● 電源プラグがコンセントから抜けていませんか。	28
	● ランプカバーが正しく取り付けられていますか。	67
	● 本機の温度が高くなっていませんか。本機の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。	61
	● ランプ使用時間が1100時間を超えていませんか。1100時間を超えると電源が入らなくなります。	61
映像が出ない	● 接続されている入力を選んでいますか。	32
	● 入力端子のケーブルが正しく接続されていますか。	22～26
	● パソコン接続の場合、パソコンから信号が出ていますか。	24
	● 本機の対応周波数以外の信号を入力していませんか。	69
	● 映像調整の明るさ、コントラストが最小になっていませんか。	35, 47
	● ランプが切れていませんか。	61
	● STATUSインジケータが点滅していませんか。	60
映像が歪む	● 正しく設置されていますか。	30
	● キーストーン（台形歪み補整）調整で正しく合わせていますか。	36, 53
映像がぼやける	● レンズのフォーカス（焦点）は合っていますか。	31
	● 投映画面とプロジェクタが正しい距離で設置されていますか。	20, 21
	● 投映距離がフォーカスの合う範囲を超えていませんか。	20, 21
	● レンズなどが結露していませんか。 気温の低い所に保管しておいて暖かい所で電源を入れるとレンズや内部光学部が結露することがあります。このような場合は結露がなくなるまで数分お待ちください。	–
映像位置がずれて正常に表示されない	● 入力信号が対応している解像度、周波数になっていますか。パソコンの解像度をご確認ください。	69
映像がつぶれている	● 映像が横または縦方向につぶれているときや画面一杯に映らない場合はアスペクト比の選択を行ってください。	33, 51
映像全体の色がおかしい	● コンポーネント信号を入力している場合は、カラースペースの設定が異なっています。カラースペース設定を行ってください。	50

このようなとき	確認してください	参照ページ
メニュー名の選択ができない	● ［カラー］、［設定］と［情報］以外は本機に信号を入力して、映像／画像を投映していないと選択できません。	−
PIPボタンを押しても子画面を表示しない	● パソコン画面を映していないと表示しません。 また、ビデオ映像を入力していないと映像は出ません。	34
リモコンが働かない	● 輸送用絶縁シートは外しましたか。 ● リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がありませんか。 ● リモコン信号がとどく範囲を超えていませんか。 ● 強い光または蛍光灯が受光部のそばにありませんか。 ● 電池が消耗していませんか。本体近くからリモコン受光部に向けて操作してみてください。切り換わりにくい場合は、電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。	18 − 18 − −
STATUSインジケータが点灯あるいは点滅する	● STATUSインジケーター一覧をご覧ください。	60

以上をご確認いただいても解決できない場合は、ご購入販売店または弊社カスタマーセンターをご利用ください。

お知らせ

- 青色になっている“カスタマーセンター”上に手アイコンを合わせると アイコンに変わります。
  マウスをクリックすると“弊社カスタマーセンターお問い合わせ方法”にジャンプします。

＊Adobe Acrobat Reader は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

お手入れについて

●お手入れの前に必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
●プロジェクタ本体やレンズおよびスクリーンに殺虫剤など揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

■プロジェクタ本体の汚れは……

- 毛羽立ちのすくない柔らかい乾いた布でふいてください。
  汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
  化学ぞうきんを使用する場合は、その注意書に従ってください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤でふかないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。
- 排気孔・吸気孔のほこりを取り除く場合は、掃除機のブラシ付きのアダプタを使用して吸い取ってください。なお、アダプタを付けずに直接当てたり、ノズルアダプタを使用することは避けてください。
- プロジェクタ本体を爪や硬いもので強くひっかいたり、当てたりしないでください。傷の原因となります。

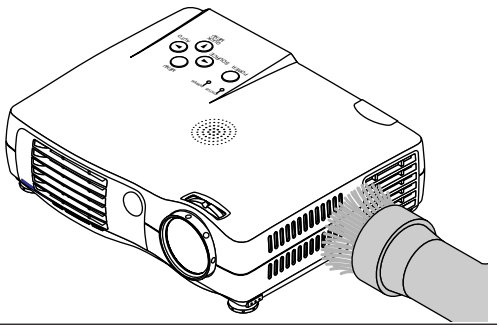
■レンズのよごれは・・・・・・

- カメラのレンズと同じ方法で（市販のカメラ用ブローワーやメガネ用クリーニングペーパーを使って）クリーニングしてください。その際レンズを傷つけないようご注意ください。

■吸気孔、排気孔のほこりは……

吸気孔、排気孔にほこりがたまると空気の通りが悪くなり、内部の温度が上昇し、故障の原因となりますので、こまめに掃除をしてください。最低でも使用期間100時間を目安に掃除をしてください。

- 電源を切りPOWERインジケータがオレンジ色の点灯に変わったのを確認後、電源コードを抜いてください。
- 外側から電気掃除機で吸い取ってください。掃除機のブラシ付きのアダプタを使用してください。なお、アダプタを付けずに直接当てたり、ノズルアダプタを使用することは避けてください。



■本体内部の掃除は……

年に1度くらいは本体内部の掃除が必要です。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。内部の掃除はご自分でせず、必ず販売店または弊社「カスタマーセンター」にご相談ください。

ランプカートリッジの交換

本機の光源に使われているランプには寿命があります。ランプの定格寿命は約1,000時間です。なお、ランプ寿命は約1,000 時間ですが、使用条件などにより早まる場合があります。

（定格寿命とは、長期間に製造されたランプの、寿命の平均値を言い、当社試験条件によるものです。）

ランプの使用時間が1000 時間を超えるとSTATUS インジケータが点灯し、使用時間表示が画面上に表示されます。また、1100 時間を超えるとランプがつかなくなります。この場合はランプカートリッジの交換時期です。以下の手順にしたがって交換してください。

⚠注意

- ランプカートリッジの交換は、電源を切り、POWERインジケータがオレンジの点灯に変わったのを確認後、電源プラグをコンセントから抜き、約60 分おいてから行ってください。
  動作中や停止直後にランプカートリッジを交換すると高温のため、やけどの原因となることがあります。
- 指定のネジ以外は外さないでください。
- プロジェクタの光源には、内部圧力の高い水銀ランプ（以下、高圧水銀ランプ又はランプと言う）を使用しております。取り扱いには十分にご注意ください。
- ランプの使用時間が1000 時間を超えると、本体のSTATUS インジケーターが点灯いたします。
  ランプが正常に点灯している場合でも速やかに新しいランプと交換してください。
- 高圧水銀ランプは衝撃や傷、使用時間の経過による劣化の原因により、不点灯状態となって寿命が尽きたり、大きな音をともなって破裂したりする特性があります。
- ランプカートリッジのガラスの部分を素手で触らないでください。ランプの破裂や寿命が短くなる原因となります。また、ランプは使用条件や個体差によって寿命が異なります。まれにですが、使用後まもなく破裂する事もあります。
- 高圧水銀ランプが破裂したとき、ランプハウスの中にガラスの破片が飛び散りランプ内部のガスがプロジェクタの通風孔を通じ外に漏れる可能性があります。
  ランプが破裂した際には顔や手などを近づけず、速やかに販売店もしくは弊社「カスタマーセンター」（ 0120-331-059）にランプの交換と内部の点検を依頼してください。
- 高圧水銀ランプの内部には、水銀等の人体に有害な物質が含まれております。ランプが破裂したときにプロジェクタの近くに顔や手などがあり、万が一ランプから発生したガスを吸い込んだり、体に付着した場合には、速やかに医師にご相談ください。
- プロジェクタのランプは、蛍光灯やハロゲンランプと同じ有害物質（水銀、ハロゲン物質等）を使用しております。
  ご使用後のランプは、一般的な蛍光灯などと同じ分別方法で廃棄してください。

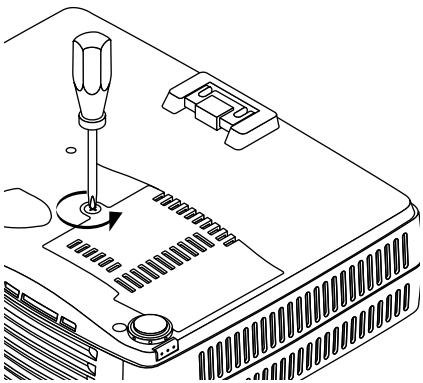
準備 プロジェクタ本体を裏がえしにして柔らかい布などを敷いて、傷がつかないように置くと、交換しやすくなります。交換後はもとに戻してください。

1. 電源コードを外す。

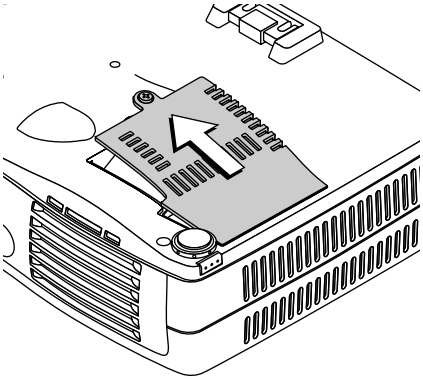
2. 本体の底面を上にする。

3. ランプカバーを外す。

（1）ランプカバーの止めネジを左へ空回りするまでゆるめます（ネジは外れません）。

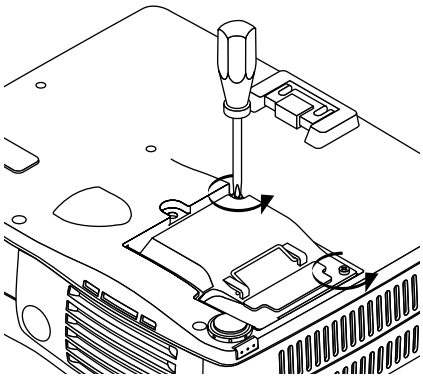


（2）ランプカバーを少し開けてから、矢印方向に引いて取り外す。

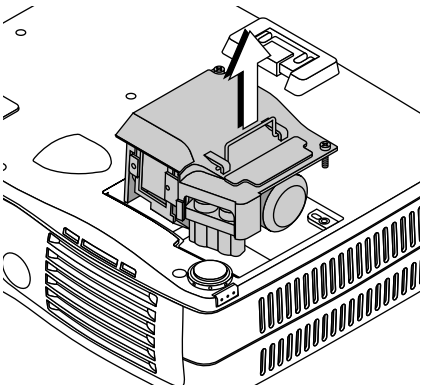


4. ランプカートリッジを取り外す

（1）ランプカートリッジのネジ2本を左へ空回りするまでゆるめます（ネジは外れません）。

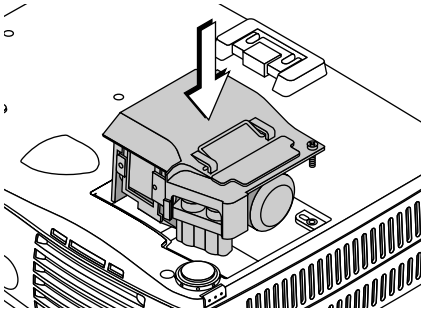


（2）ランプカートリッジの取っ手を持って上に引いて、取り外します。

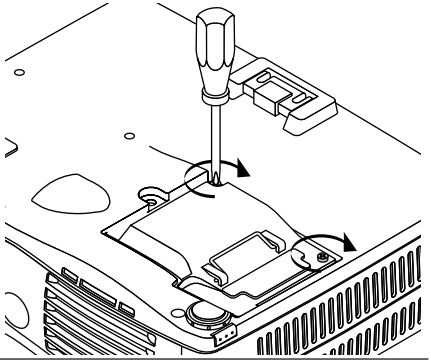


5.新しいランプカートリッジを取り付ける

（1） ランプカートリッジのソケットを手前にして、ゆっくり押し込みます。
（本体のネジ穴に合わせてください。）

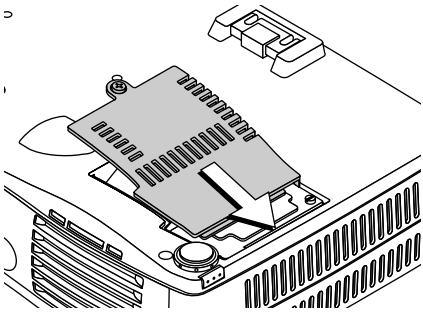


（2） ランプカートリッジのネジ2本を右へ回して締めます。

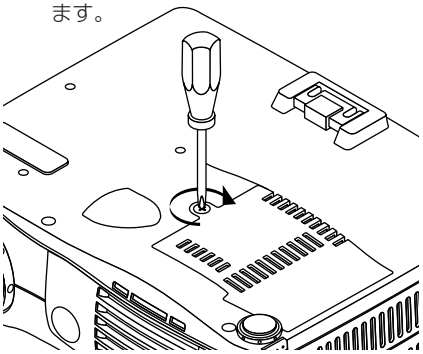


6. ランプカバーを取り付ける。

（1） ランプカバーの先を本体のミゾに入れてからランプカバーを閉めます。



（2） ランプカバーのネジを右へ回して締めます。



7. ランプ使用時間をリセットする。

電源コードを接続し、電源を入れてから行います。
メニューの［情報］→［ランプ使用時間リセット］を選択してリセットしてください。

➔58ページ参照

お知らせ

- ランプ使用時間が1100 時間を超えると、電源をオンにすることができなくなります。したがってメニューによるランプ使用時間のリセットができません。この場合は、スタンバイ状態で本体のSOURCEボタンとAUTOボタンを同時に5 秒以上押してください。
  リセットされるとSTATUS インジケータが消灯します。
  交換用ランプは販売店でお求めください。ご注文の際はV-1100交換用ランプ型名V-120 (注文コード28 - 060)とご指定ください。

仕　様

製品型式名			V-1100
投映方式			DLP™（単板DMD）方式
主要部品仕様	DMD	サイズ	0.7型
		画素数	786,432画素（1024×768）
	投映レンズ		マニュアルフォーカス（固定焦点）　F=2.4　f=23mm
	光源		120W　高圧水銀ランプ
	光学装置		カラーホイールによる時分割方式
画面サイズ			最小36型（投映距離 1.2m） 最大200型（投映距離 6.6m）
色再現性			フルカラー （1,677万色）
明るさ			1000 ANSI ルーメン
コントラスト比			2000：1（フル オン・オフ）
音声出力			0.5W モノラルスピーカ内蔵
走査周波数		水平	15～85kHz
		垂直	50～120Hz
RGB入力	入力信号	信号方式	セパレート信号方式、TMDS方式
		映像信号	アナログ：0.7Vp-p/75Ω、デジタルDVI-I
		同期信号	セパレート/コンポジット：TTLレベル（正／負） シンクオングリーン：0.3Vp-p 負
		音声信号	0.4Vrms/47kΩ
	解像度		VGA（640×480）拡大・リアル表示 S-VGA（800×600）拡大・リアル表示 XGA（1024×768）リアル表示 S-XGA（1280×1024）圧縮表示
ビデオ入力	入力信号	信号方式	NTSC 3.58 , NTSC 4.43, PAL, PAL N, PAL M, PAL60, SECAM, YCbCr (NTSC 3.58, PALのみ)
		映像信号	コンポジット：1.0Vp-p/75Ω、コンポーネント対応 S-VIDEO：Y信号（1.0Vp-p･75Ω）、C信号（0.286Vp-p/75Ω）
		音声信号	0.4Vrms/47kΩ
	水平解像度		NTSC：550本
入力端子			PC：DVI-I（アナログRGB、デジタルRGB、YPbPr/480p, 1080i, 720p）×1 ビデオ：Φ3,5mm 4極ミニジャック（コンポジット、S-VIDEO、YCbCr 共通）×1 オーディオ：Φ2,5mm ステレオミニジャック（RGB/ビデオ 共通）×1
使用環境			動作温度：5～35℃　　動作湿度：30～85%（ただし結露しないこと）
電源			AC 100 V、50／60Hz
定格入力電流			1.8A
消費電力			定格：180W
外形寸法			180（幅）×45（高）×141（奥行）mm　(突起部含まず)
質量			約1.0kg
付属品			ワイヤレスリモコン、電源コード（1.8m）、DVI/ミニD-Sub15ピン変換ケーブル（19cm）、RGB信号ケーブル（2m）、S-ビデオケーブル（1.5m）、ビデオケーブル（1.5m）、オーディオケーブル（1.5m）、ソフトポーチ、レンズキャップ、取扱説明書（CD-ROM版）、取扱説明書（簡易版）、ユーザー登録カード、FAX発信用ユーザー登録用紙、保証書

- この仕様･意匠はお断りなく変更することがあります。
- 本製品の仕様は国内向けです。本体付属の電源コードは国内向けAC100V仕様なので海外では使用できません。日本以外で本製品を使用する場合は、販売店または、弊社「カスタマーセンター」にご相談ください。また、外国では放送方式が異なりますので、よくお確かめの上ご使用ください。

対応周波数一覧表

本機はパソコンからの入力信号を自動で識別し、下表に対応する最適な解像度を選びます。
入力信号によっては手動での調整が必要な場合もあります。➪ 39～46ページ「クロック周波数／位相／水平位置／垂直位置」をご覧ください。

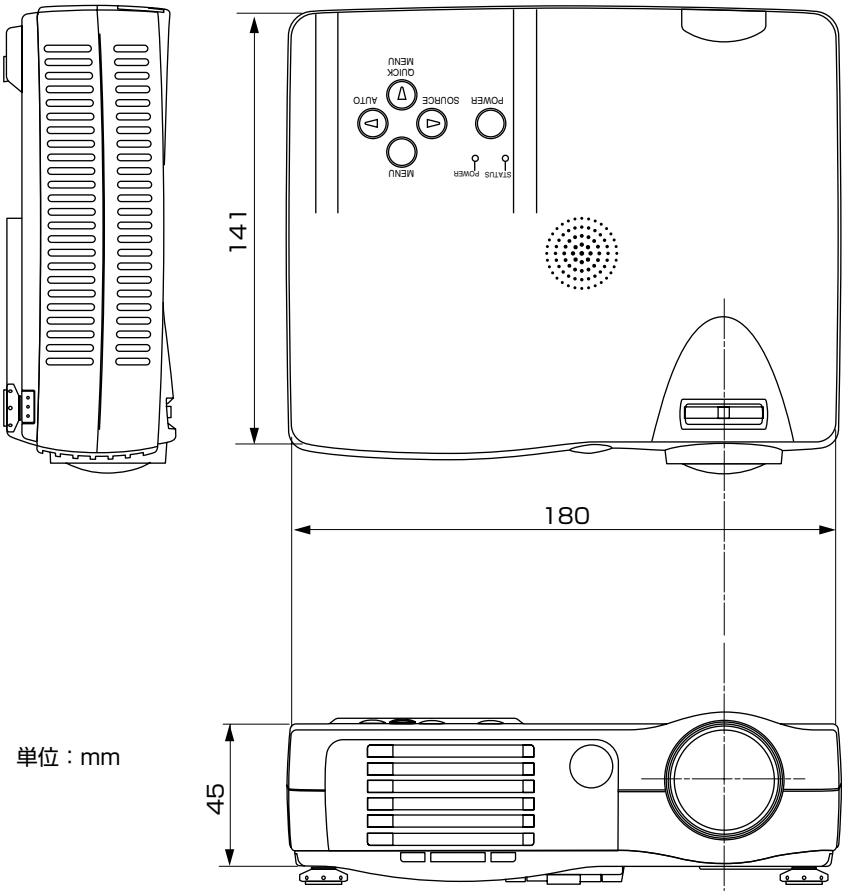
パーソナルコンピュータ	解像度	走査周波数		デジタル	アナログ
		水平（kHz）	垂直（Hz）		
VESA	640 × 350	31.5	70.1	—	○
	640 × 350	37.9	85.1	—	○
	720 × 350	31.5	70.0	—	○
	640 × 400	31.5	70.1	—	○
	640 × 400	37.9	85.1	—	○
	720 × 400	31.5	70.0	○	○
	720 × 400	37.9	85.0	—	○
	640 × 480	31.5	60.0	○	○
	640 × 480	37.9	72.8	○	○
	640 × 480	37.5	75.0	○	○
	640 × 480	43.3	85.0	○	○
	800 × 600	35.2	56.3	○	○
	800 × 600	37.9	60.3	○	○
	800 × 600	46.9	75.0	○	○
	800 × 600	48.1	72.2	○	○
	800 × 600	53.7	85.1	○	○
	1024 × 768	48.4	60.0	○	○
	1024 × 768	56.5	70.1	○	○
	1024 × 768	57.7	72.0	○	○
	1024 × 768	60.0	75.0	○	○
	1024 × 768	68.7	85.0	○	○
	1280 × 1024	64.0	60.0	○	○
	1280 × 1024	80.0	75.0	—	○
	1280 × 1024	91.1	85.0	—	○
NEC(PC-9800)	640 × 400	24.8	56.4	—	○
	640 × 400	31.5	70.1	—	○
	640 × 480	31.5	60.0	—	○
	640 × 480	37.5	75.0	—	○
	800 × 600	37.9	60.3	—	○
	800 × 600	46.9	75.0	—	○
	1120 × 750	50.0	60.1	—	○
	1024 × 768	56.5	70.1	—	○
	1024 × 768	60.0	75.0	—	○
	1280 × 1024	64.6	59.9	—	○
Apple Macintosh	640 × 480	35.0	66.7	○	○
	832 × 624	49.7	74.5	○	○
	1024 × 768	60.2	74.9	○	○
	1152 × 870	68.7	75.1	—	○
Sun	1152 × 900	61.8	66.0	—	○
	1280 × 1024	81.1	76.1	—	○
SGI	1024 × 768	49.7	60.4	—	○
	1152 × 900	71.7	76.1	—	○
	1280 × 1024	63.9	60.0	—	○
HP	1280 × 1024	78.1	72.0	—	○

※Apple MacintoshのADCコネクタは非対応です。

○ 印：対応可能周波数
— 印：非対応周波数

表示画素数は1024×768ドットです。1280×1024等、1024×768ドット以外の表示解像度を表示する際、文字や罫線の大きさなどが不均一になる場合があります。

外観図



単位：mm

アフターサービス

お手持ちの製品が故障した場合には、次の要領で修理させていただきます。お近くの販売店または弊社「カスタマーセンター」にお申し出ください。なお、保証、使い方などのご不明の点につきましても、販売店または弊社「カスタマーセンター」をご利用ください。

無料修理

故障した製品については、ご購入年月日、販売店名の記入された保証書(ご購入日より1年以内のもの)が添付されている場合には、無料修理させていただきます。その際修理は、保証書に記載されている内容の範囲内に限らせていただきます。詳しくは、保証書に記載されている製品保証規定をご覧ください。

有料修理

保証期間を過ぎた修理は、原則として有料になります。保証期間内であっても、下記の様な場合はすべて有料となります。また運賃諸掛かりは、お客様にご負担願います。

1. 修理ご依頼の際、保証書の提示または添付のないもの。
2. 保証書にご購入年月日、販売店名が記入されていない場合、または字句が書き換えられている場合。
3. 弊社または販売店以外で分解、改造されたもの。
4. 火災、地震、風水害などの天災による損傷、故障。
5. お取り扱い上の不注意(取扱説明書以外の誤操作、落下、衝撃、手掛かり、砂・泥の付着、機内部への水・砂・泥の入り込みなど)、保管上の不備(高温多湿やナフタリン、しょうのうの入った場所での保管)、お手入れの不備(かび発生など)により生じた故障。
6. 上記以外で弊社の責に帰すことのできない原因により生じた故障。
7. 各部点検、精密検査、分解掃除などを特別に依頼されたもの。

修理不能

浸(冠)水、強度の衝撃その他で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの、および部品の手当が困難なものなどは修理できない場合もありますので、お近くの弊社または販売店にお問い合わせください。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本プロジェクタの補修用性能部品を製造打切り後、最低8年保有しています。
(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

修理ご依頼に際してのご注意

1. 保証規定による修理お申し出になる場合は、必ず保証書を添えてください。
2. ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。
3. 修理箇所のご指定がないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
4. 修理に関係のない付属物は、紛失などの事故をさけるため、修理品から取りはずしてお手もとに保管してください。
5. 弊社指定工場修理の場合、ご購入時の外箱に入れて梱包してください。

PLUS Vision Corp.

プラスビジョン株式会社

〒112−0013 東京都文京区音羽1−20−11

www.plus-vision.com

プラスビジョン カスタマーセンター

TEL 0120-331-059

NKKKQA
ISO 14001

ISO 14001 認証取得
PLUS本社・PLUSLAND
プラスビジョン入間オフィス/
入間ファクトリー
NQE-9809008A

ISO 9001 認証取得
プラスビジョン入間ファクトリー
12 100 17398 TMS

＊プラスビジョン株式会社は、プラスグループの一員として環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しています。

©2002, PLUS Vision Corp.

弊社カスタマーセンターお問い合わせ方法

お問い合わせの際には下記の項目を事前にご確認ください。

- 弊社製品名、シリアル番号
- プロジェクタに接続している機器の種類
  （PC/DVD　機種名/OSバージョン）
- プロジェクタと接続している機器との接続方法
  （ケーブル類等）
- 具体的な症状
  （インジケーターの点滅等）

■ プラスビジョンカスタマーセンター

TEL：0120 - 331 - 059
（携帯・PHS・衛星電話からもご利用いただけます。）

FAX：0120 - 331 - 859
➜FAXお問い合わせフォーム

URL：**http://www.plus-vision.com/jp/contact.html**